

ApeosWare Management Suite 2

セットアップガイド

- ①このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- ②このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ③このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

富士フイルムビジネスイノベーションに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル 0120-27-4100

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 ～ 12 時、13 ～ 17 時

フリーダイヤルは、海外からはご利用になれません。また、一部の IP 電話からはつながらないことがあります。

お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

インターネットホームページで商品情報を提供しています。

アクセス先は、https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_manage_suite です。

ABBYY®FlexiCapture® は、ABBYY の商標または登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、PostScript、および Reader は、米国ならびに他の国における Adobe の登録商標または商標です。

Apple、Mac、Mac OS and Safari are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Google、Google Chrome、Google Drive、Android および Chrome OS は、Google LLC の商標または登録商標です。

IOS is a trademark or registered trademark of Cisco in the U.S. and other countries and is used under license.

Intel、Intel Core、Xeon、インテル、インテルコア、ジーオン は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標または登録商標です。

Kofax、Kofax のロゴ、および OmniPage は、Kofax 社または関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

McAfee、VirusScan は、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Active Directory、ActiveX、Excel、Microsoft Edge、OneDrive、PowerPoint、SharePoint、SQL Server、Visual Basic、および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

©Panasonic Solution Technologies Co., Ltd.2020

PaSoRi は、ソニー株式会社の登録商標です。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Red Hat は、Red Hat, Inc. の登録商標です。

Vine Linux は、Project Vine および有限会社ヴァインカーブの登録商標です。

Wi-Fi は Wi-Fi Alliance の登録商標です。

その他の社名、または商品名等は、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

Microsoft Corporation. All rights reserved.

This application has been created independently of Objective Corporation Limited involvement and Objective Corporation Limited does not endorse or guarantee the integration of this application with Objective licensed software.

This software contains Beijing Founder Electronics Co., Ltd fonts.

This software contains Universal Font Scaling Technology From Monotype Imaging Inc.

Sentinel®RMS ©SafeNet, Inc. All rights reserved

本商品のマニュアルは、富士ゼロックス株式会社が過去に販売した次の機種にも適合する ApeosWare Management Suite の説明を含みます。

適合機種名は、弊社公式サイトを参照してください。

https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_manage_suite/device.html

本商品のマニュアルは富士ゼロックスブランドの商品を含みます。

富士ゼロックスブランドの商品は、米国ゼロックス社からライセンスを受けている製品です。商品提供者は富士フイルムビジネスイノベーション株式会社です。

Xerox、Xerox ロゴ、Fuji Xerox ロゴ、DocuCentre、DocuShare、DocuPrint および PrintXchange は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。

ApeosPort、ApeosWare、ApeosWare ロゴ、DocuWorks、および Working Folder は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

もくじ

もくじ	3
本書の表記	5
マニュアルと付属ツールについて	5

1 セットアップ

必要な環境	8
ネットワーク	8
サーバーの構成	10
オールインワン構成	10
サーバーを多重化する構成 (Enterprise Edition のみ)	10
分散構成	11
準備	14
PC の環境を確認する	14
機器を設定する	15
ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合	17
Flow Management Option を利用する場合に、追加で必要なソフトウェア / ファイルに ついて	17
シリアル番号のリストファイルについて	18
ウイルス対策ソフトウェア使用時のインストールについて	18
IIS (Internet Information Services) のインストールについて	20
SQL Server について	22
オールインワン構成のセットアップ	25
セットアップの流れ	25
必要なソフトウェアをインストールする	26
SQL Server 2019 Standard をインストールする	26
ApeosWare Management Suite をインストールする	26
ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する	28
ルーターにポートを例外登録する	31
クライアント PC にツールをインストールする	35
多重化サーバー構成のセットアップ	36
分散構成のセットアップ	37
セットアップの流れ	37
データベースサーバーをセットアップする	39
レポートサーバーをセットアップする	39
メインサーバーをセットアップする	41
プリントアプリケーションサーバーをセットアップする	43
設定ファイルを更新する	44
プリント入出力サーバー、またはモバイルサーバーをセットアップする	45
OCR サーバーをセットアップする	45

フローサーバーをセットアップする	47
イメージログサーバーをセットアップする	48
ルーターにポートを例外登録する	50
クライアント PC にツールをインストールする	55
ライセンス認証	56
インターネット経由でライセンスを認証する	56
ファイルを使用してライセンスを認証する	57
ソフトウェアのシリアル番号を削除する	59
シリアル番号を入力する	59
富士フイルムビジネスイノベーション ライセンス認証サポートデスク	61
セットアップ後にすること	62
ApeosWare Management Suite にログインする	62
シングルサインオン機能の設定	62
インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき	63

2 修復、変更、およびアンインストール

修復インストール	64
変更インストール（オプションの追加）	64
アンインストール	65
概要	65
ツールをアンインストールする	66
アンインストールするソフトウェアのライセンス認証を解除する	66
ソフトウェアとオプションをアンインストールする	68
データベースを手動で削除する	68
メモリー使用量の割り当て	71
概要	71
オプション	72
メモリーの使用量を割り当てる	72
メモリーの使用量を初期状態に戻す	73
動作ログ	74

本書の表記

説明する内容によって、次の記号を使用しています。



注記

必ず知っておいていただきたい情報、操作するときに必ず確認していただきたい情報を記載しています。



補足

操作の参考になる情報を記載しています。



参照

参照先を記載しています。

次の表記を使用しています。

- 「 」 メッセージ、ファイル名、フォルダー名、入力値、入力例、および強調したい内容を表します。また、マニュアル内で参照する箇所を表します。
例：「XXX」と表示されます。
- < > キーボードのキーを表します。
- [] コンピューターの画面に表示される項目を表します。また、ウィンドウ、メニュー、ダイアログボックス、タブ、ボタンを表します。
例：[OK] をクリックします。
- { } ドライブ名やユーザー名など、操作時に変わる値を表します。
例：対象機器の「{機種名}：{シリアル番号}（{IP アドレスまたはホスト名}）」が表示されます。
- > メニューや Web ページの階層を表します。
例：[スタート] > [プログラム] の順に選択します。
- 『 』 参照するマニュアルです。

- Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。

マニュアルと付属ツールについて

マニュアルの表示方法

ApeosWare Management Suite にログインしてから、ヘッダーメニューの [ヘルプ] > [取扱説明書 (PDF 文書表示)] の順に選択します。ネットワーク上にあるマニュアル一覧が表示されるので、ダウンロードするマニュアルをクリックします。

付属ツールの場合は、付属ツールの [ヘルプ] ボタンをクリックします。ネットワーク上にあるマニュアル一覧が表示されるので、ダウンロードするマニュアルをクリックします。

ApeosWare Management Suite のマニュアル一覧を次に示します。

マニュアル名	概要
セットアップガイド（本書）	ApeosWare Management Suite のセットアップ方法を説明しています。
導入・運用ガイド	ApeosWare Management Suite の各機能の概要を説明しています。
機能ガイド	ApeosWare Management Suite の設定方法およびメンテナンスの方法を説明しています。

マニュアル名	概要
機能ガイド Flow Management Option 編	文書を配信するフローの作成方法を説明しています。 Flow Management Option を使用します。
機能ガイド Flow Management Option 編 メッセージ集	Flow Management Optionのメッセージとその対処方法を説明しています。
機能ガイド On Demand Print Terminal 編	On Demand Print Terminal の機能の概要や基本的な操作について説明しています。 この機能は、日本国内だけで利用できます。
Flow Management Option のヘルプ	Flow Management Option の画面項目の意味を説明しています。
Paper Form のヘルプ	Paper Form Editor および Paper Form Management の画面項目の意味を説明しています。
付属ツールのヘルプ	Data Input Console、Diagnostics Utility、Popup Messenger および Update Service の画面項目の意味を説明しています。
Job Log Analyzer ユーザーガイド	ジョブログファイルを集計して、一覧レポートやグラフなどを作成する、Job Log Analyzer の機能と使い方を説明しています。
移行ガイド	ApeosWare Management Suite 2.0 以降のバージョンから、ApeosWare Management Suite 2.2 へのアップデートインストールをする方法、および移行ツールを使って ApeosWare Management Suite 1.x から ApeosWare Management Suite 2.2 にバージョンアップする方法について説明します。

付属ツール一覧と起動方法

ツール名	概要	ツールの起動方法
Data Input Console (データ設定ツール)	大量の情報を一括して設定します。	Windows のプログラムを起動するメニューから、 [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [データ設定ツール] を選択します。
Diagnostics Utility (診断ツール)	ネットワークの障害が発生したときに、エラーの状況を診断したり、PC のログを取得したりします。	Windows のプログラムを起動するメニューから、 [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [診断ツール] を選択します。
Paper Form Editor	Paper Form Option のフォームテンプレートファイルを作成します。	Windows のプログラムを起動するメニューから、 [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [Paper Form Editor] を選択します。
Paper Form Management	Paper Form Option の動作に必要なファイル (リソース) を管理します。また、フォームを削除します。	Windows のプログラムを起動するメニューから、 [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [Paper Form Management] を選択します。
Popup Messenger (ポップアップ通知受信ツール)	プリントジョブなどに関する通知を受信して、クライアント PC で表示します。	Popup Messenger をインストールした PC を起動すると、自動的に起動します。 Popup Messenger が起動しない場合や、Popup Messenger を終了したあとで再起動する場合は、Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM Popup Messenger] > [Popup Messenger] の順に選択します。

ツール名	概要	ツールの起動方法
Update Service (アップデートサービス)	ApeosWare Management Suite のソフトウェアをアップデート します。	Update Service をインストールした PC を起動す ると、自動的に起動します。 Update Service が起動しない場合や、Update Service を終了したあとで再起動する場合は、 Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [Update Service- いますぐ更新] を選択します。 ApeosWare Management Suite のソフトウェア をアップデートする場合、アップデート後に、 Web ブラウザーのキャッシュ (インターネット 一時ファイル) をクリアしてから、再度操作してく ださい。
Job Log Analyzer (集計ツール)	ジョブログファイルを集計して、 一覧レポートやグラフなどを作 成します。	Windows のプログラムを起動するメニューから、 [FUJIFILM] > [ジョブログ集計ツール] を選択 します。

1 セットアップ

必要な環境

ApeosWare Management Suite を使用するために必要な動作環境の最新の情報については、弊社公式サイトをご覧ください。

ネットワーク

TCP/IP プロトコル上で動作します。必要な要件は次のとおりです。

- IPv4 または IPv6 の固定 IP アドレス
- DNS

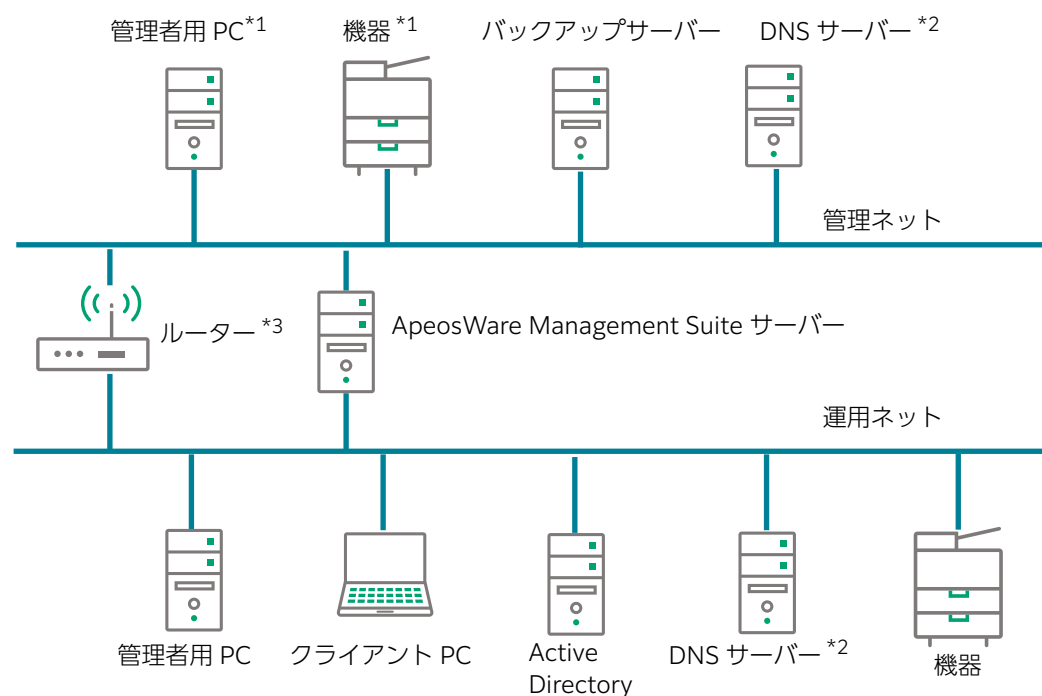


DHCP など設定される動的な IP アドレスを設定すると、ApeosWare Management Suite が正常に動作しないおそれがあります。

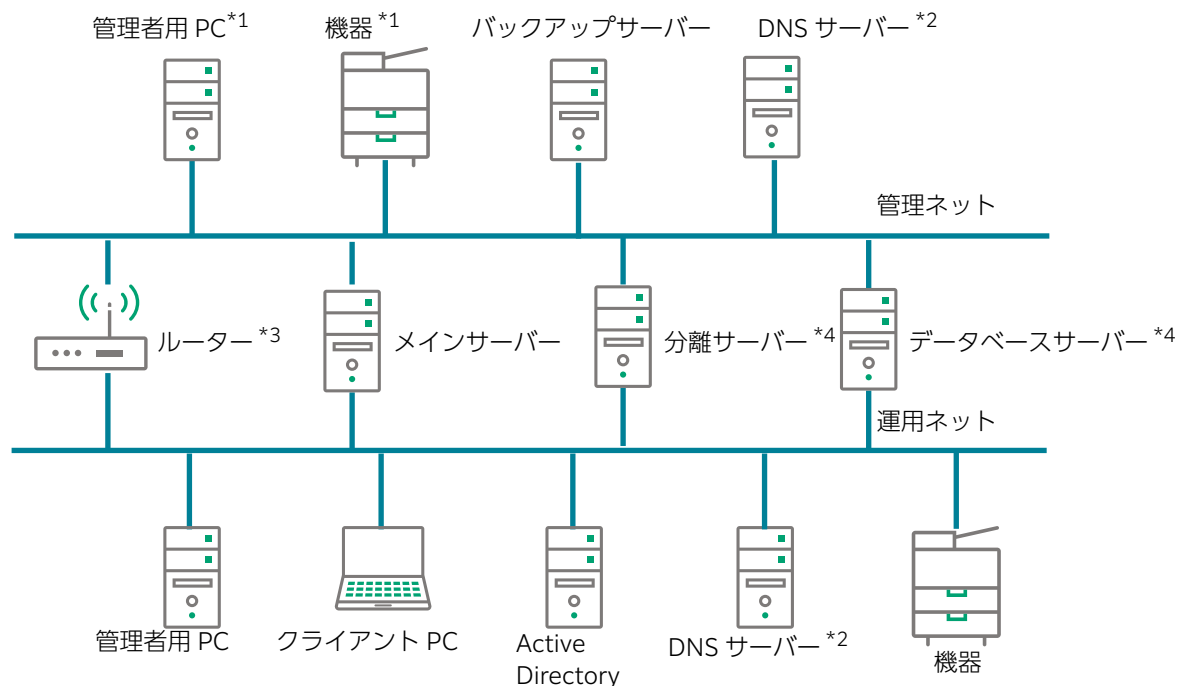
ネットワークカードの 2 枚構成について

ApeosWare Management Suite のメインサーバーは、運用ネットと管理ネットと呼ぶ論理ネットワークにアクセスできます。ルーティングしている環境の場合、運用ネットには、クライアント PC、Active Directory、DNS サーバー、および機器を接続し、管理ネットには、管理者用 PC とバックアップサーバーを接続します。

■ Entry Edition の場合



■ Enterprise Edition の場合



- *1 運用ネットと管理ネットをルーティングしていない場合、次の制限があります。
管理ネットから、ApeosWare Management Suite にログインできません。
各ネットのアドレス体系を別にする必要があります。各ネットのアドレス体系を別にしないと、機器の SNMP トラップ受信ができない場合があります。
- *2 運用ネットと管理ネットの両方に DNS サーバーを設置するときは、運用ネット側の DNS サーバーを優先にしてください。
- *3 ルーティングしている環境の場合、すべての機能を利用できますが、性能が劣化する可能性があります。
- *4 サーバー構成を分散構成にする場合のみ。各サーバーの詳細は「分散構成」(P.11)を参照してください。

補足

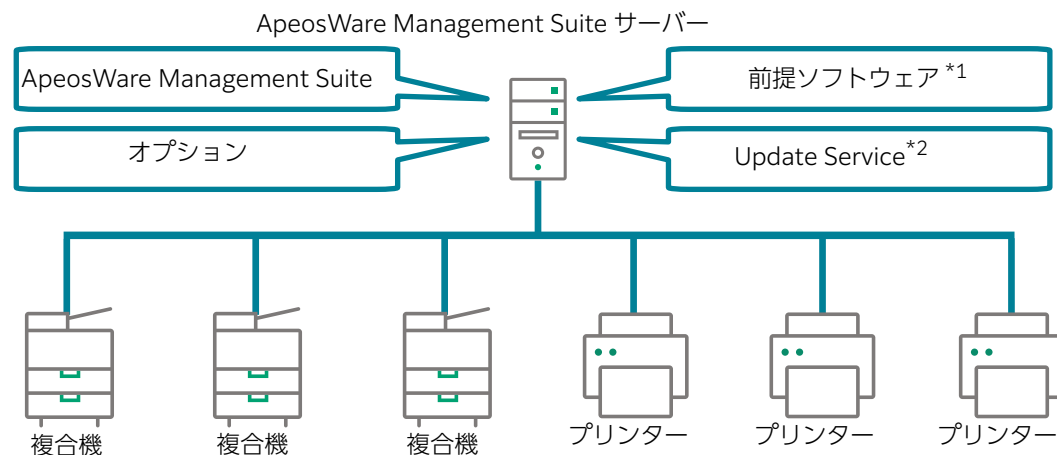
設置するときは、運用ネットのネットワークを有効にしてインストールしたあと、管理ネットのネットワークを有効にしてください。また、ネットワークのアクセス順を運用ネット、管理ネットの順にしてください。

サーバーの構成

ApeosWare Management Suite のサーバーの構成について説明します。

オールインワン構成

ApeosWare Management Suite のソフトウェアを、1 台の PC にインストールして使用する構成です。



*1 ApeosWare Management Suite を使用するために必要な動作環境の最新の情報については、弊社公式サイトをご覧ください。

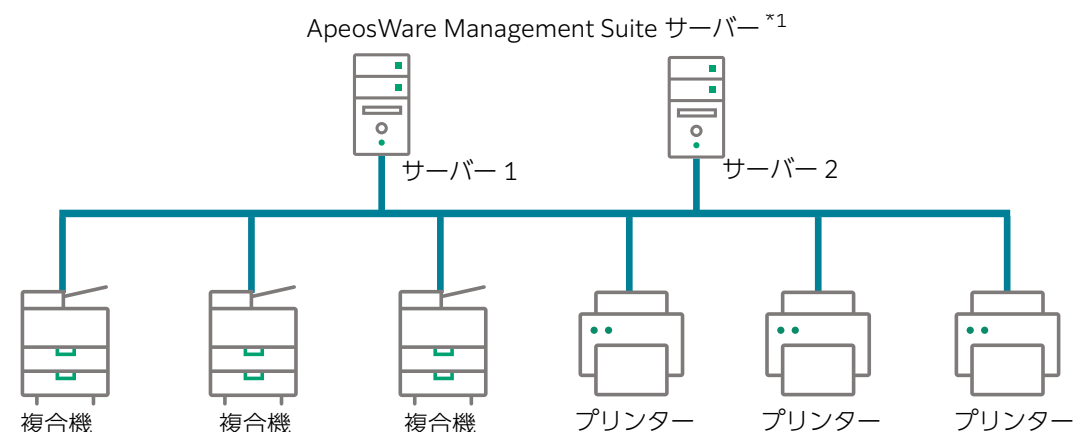
*2 「富士フィルムビジネスイノベーションからのお知らせ」を受信するのに必要です。



「オールインワン構成のセットアップ」(P.25)

サーバーを多重化する構成 (Enterprise Edition のみ)

ApeosWare Management Suite のソフトウェアをインストールした 2 台の PC を使用する構成です。それぞれの PC に機器を登録して運用します。



*1 それぞれのサーバーにインストールする内容は、「オールインワン構成のセットアップ」(P.25) のサーバーと同じです。



「多重化サーバー構成のセットアップ」(P.36)

分散構成

ApeosWare Management Suite のソフトウェアを、複数の PC に分散してインストールして使用する構成です。処理能力の向上と、ネットワーク負荷の分散が期待できます。

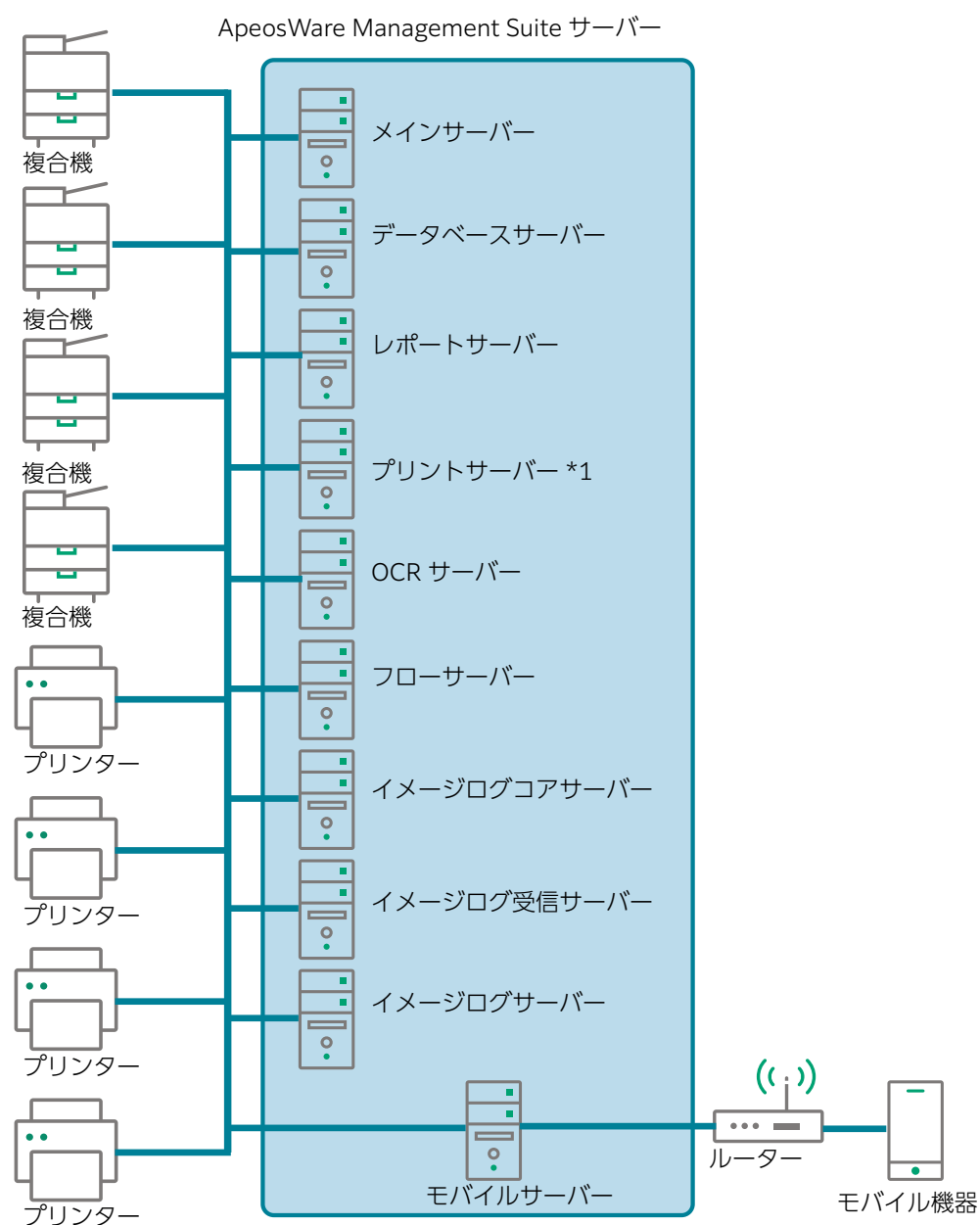
Enterprise Edition と Entry Edition で、分離できるサーバーが異なります。



参照

「分散構成のセットアップ」(P.37)

Enterprise Edition の場合



*1 プリントアプリケーションサーバー、またはプリント入出力サーバーのどちらか。
同一システム上に 2 種類のプリントサーバーの混在はできません。

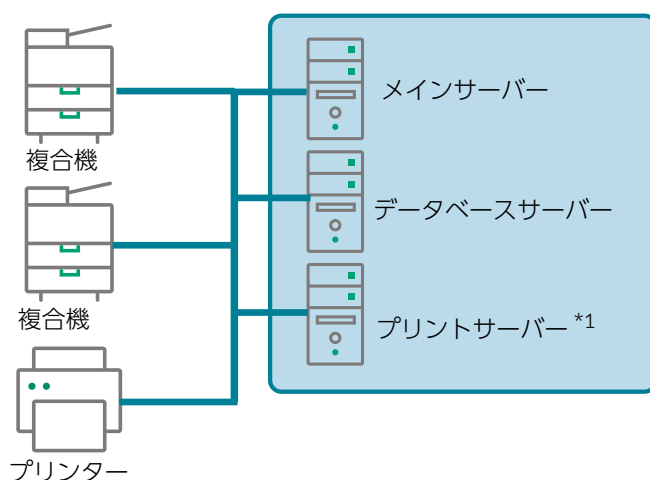
サーバー	必須 / 任意	設置できる台数	説明
メインサーバー	必須	1 台	ApeosWare Management Suite をインストールした PC です。 フローサーバーを設置する場合は、Flow Management Option はインストールしません。
データベースサーバー	任意	1 台	SQL Server をインストールした、データベース専用の PC です。 データベースサーバーをメインサーバーと分離することによって、負荷を分散できます。
レポートサーバー	任意	1 台	レポートの処理を行うための PC です。SQL Server の SSRS (SQL Server Reporting Services) オプションが必要です。 レポート作成専用のサーバーをメインサーバーと分離することによって、メインサーバーの負荷を抑えることができます。
プリントアプリケーションサーバー	任意	4 台まで (メインサーバーを含む)	[プリント管理] をインストールした PC です。プリント管理のオプションを追加できます。 プリント管理のすべての機能を提供するサーバーを分離することによって、メインサーバーの負荷を抑えることができます。 また、プリントアプリケーションサーバーをネットワーク上の適切な場所に配置することによって、ネットワークトラフィックを抑えることができます。 プリント管理対象はそれぞれのサーバーで保持するので、サーバーの独立性が高まります。  補足 ・ 同一システム上にプリント入出力サーバーとの混在はできません。 ・ プリントアプリケーションサーバーを設置した場合、次のオプションは使用できません。 ・ Cost Recovery Option ・ On Demand Print Terminal
プリント入出力サーバー	任意	25 台まで (メインサーバーを含む)	[プリント管理] のうち、プリントデータの送受信の機能だけをインストールした PC です。プリント管理のオプションを追加できます。 プリントジョブの受付や解析、機器への転送処理をメインサーバーと分離することによって、メインサーバーの負荷を抑えることができます。 また、プリント入出力サーバーをネットワーク上の適切な場所に配置することによって、ネットワークトラフィックを抑えることができます。 プリントジョブの入出力以外の機能はメインサーバー上で提供するので、管理が容易になります。  補足 同一システム上にプリントアプリケーションサーバーとの混在はできません。
OCR サーバー	任意	3 台まで	OCR 処理や画像加工処理 (傾き補正、フォーマット変換、文書分割など) を行うための PC です。スキャン設定と文書管理サービス設定の機能を利用するときに、このサーバーが使用されます。 OCR サーバーをメインサーバーと分離することによって、メインサーバーの負荷を抑えることができます。  補足 Image Log Management Option の OCR 処理では使用されません。
フローサーバー	任意	1 台	Flow Management Option と SQL Server をインストールした PC です。 文書の取り込み、加工、および配信を実行します。 フロージョブを処理するフローサーバーをメインサーバーと分離することにより、メインサーバーの負荷を抑えることができます。

サーバー	必須 / 任意	設置できる台数	説明
モバイルサーバー	任意	1 台	ApeosWare MS Mobile アプリケーションが接続するサーバーで、アプリケーションからの要求をメインサーバーに転送する処理を行う PC です。 モバイル機器を使用して、インターネット（外部ネットワーク）から ApeosWare Management Suite にアクセスするときに設置します。 ファイアウォールによって内部ネットワークとインターネットの両方から隔離された場所に、モバイルサーバーを設置します。
イメージログコアサーバー	任意	1 台	Image Log Management OptionのコアサービスをインストールしたPCです。 イメージログの登録、監視を実行します。 イメージログコアサーバーをメインサーバーと分離することによって、メインサーバーの負荷を抑えることができます。
イメージログ受信サーバー	任意	8 台まで (OCR を利用しない場合は 4 台まで)	Image Log Management Option の受信サービス、OCR をインストールした PC です。 イメージログの受信、抽出を実行します。 イメージログ受信サーバーをメインサーバーと分離することによって、メインサーバーの負荷を抑えることができます。
イメージログサーバー	任意	1 台	Image Log Management Option のコアサービスと受信サービス、OCR をインストールした PC です。 イメージログの受信、抽出、登録、監視を実行します。 イメージログサーバーをメインサーバーと分離することによって、メインサーバーの負荷を抑えることができます。

Entry Edition の場合

データベースサーバー、プリントアプリケーションサーバー、およびプリント入出力サーバーの分離をサポートします。

ApeosWare Management Suite サーバー



*1 プリントアプリケーションサーバー、またはプリント入出力サーバーのどちらか。
同一システム上に 2 種類のプリントサーバーの混在はできません。

サーバー	必須 / 任意	設置できる台数	説明
メインサーバー	必須	1 台	ApeosWare Management Suite をインストールした PC です。
データベースサーバー	任意	1 台	SQL Server をインストールした、データベース専用の PC です。 データベースサーバーをメインサーバーと分離することによって、負荷を分散できます。

準備

セットアップを開始する前に準備することを説明します。

PC の環境を確認する

必要な台数の PC を準備する

ApeosWare Management Suite のソフトウェアをインストール する PC を準備します。必要な PC の台数は、サーバーの構成によって異なります。オールインワン構成の場合は 1 台、分散構成の場合は 2 台以上の PC が必要です。

ハードウェアと OS を確認する

ハードウェアと PC が必要な条件を満たしているか確認します。



参照

ApeosWare Management Suite を使用するために必要な動作環境の最新の情報については、弊社公式サイトをご覧ください。

ネットワークを確認する

PC のネットワークが必要な条件を満たしているか確認します。固定 IP アドレスが設定されていることを確認してください。

動的な IP アドレスでは、ApeosWare Management Suite が動作しないことがあります。



参照

「ネットワーク」(P.8)

環境の時刻を同期する

各サーバー、クライアント、および機器の時刻を同期します。

リモートデスクトップでインストールする場合

リモートデスクトップでインストールする場合は、次のどちらかを実行してください。

- 接続元の PC の DVD ドライブを共有化して、接続先の PC でネットワークドライブに割り当てる
- 接続元の PC の DVD ドライブを共有化して接続先の PC でネットワークドライブに割り当ててから、DVD ドライブにセットした ApeosWare Management Suite の製品パッケージに付属した DVD-ROM の内容を、接続先 PC のハードディスクにすべてコピーする

Flow Management Option をインストールする場合

Flow Management Option をインストールする場合は、次の注意事項があります。

- インストール、またはアンインストール中に、USB メモリーなどのリムーバブルメディアを取り付け / 取り外さないでください。動作が異常終了することがあります。
- Flow Management Option は、設置する PC のホスト名に、下記のどれかの条件に該当する場合、インストールできません。
 - ・ 英数字とハイフン (-) 以外の文字が使用されていた場合
 - ・ ハイフン (-) が、先頭または末尾に使用されていた場合
 - ・ 256 文字以上の場合
- Flow Management Option のインストール先フォルダーとユーザーデータ保存先フォルダー、取り込み元の [フォルダー] 機能と配信先の [フォルダー保存] 機能で指定したフォルダー、およびこれらのフォルダーのルートディレクトリーに、NETWORK SERVICE アカountのアクセスが許可されていないと、正しく動作しません。
これらのフォルダーとそのサブフォルダーに NETWORK SERVICE アカountのアクセス許可「フルコントロール」を設定し、変更しないようにしてください。

- ・ {インストール先フォルダー} %FM
- ・ {ユーザーデータ保存先フォルダー} %Data%FM
- ・ 取り込み元の [フォルダ] 機能で指定したフォルダー
- ・ 配信先の [フォルダ保存] 機能で指定したフォルダー

くわえて、これらのフォルダーのルートディレクトリーを含む上位のすべてのフォルダー階層に、NETWORK SERVICE アカウント、または Users グループアカウントのアクセス許可「読み取りと実行」を設定してください。

フォルダーを共有した場合、意図せず [NETWORK SERVICE] アカウントが削除されることがあります。共有フォルダーを設定したときには、NETWORK SERVICE アカウントのアクセスが許可されていることを確認してください。

機器を設定する

対象機器の確認

使用する機器が、ApeosWare Management Suite の動作対象であるかどうかを確認します。



参照

『はじめにお読みください』 (Readme)

機器に必要な設定

ApeosWare Management Suite で使用する機器には、次の設定が必要です。



補足

機種によって、メニュー構成や名称が異なる場合があります。詳しくは、お使いの機器のマニュアルを参照してください。

項目	備考
SOAP ポートの起動	
SNMP ポートの起動	
WSD ポートの起動	WSD で機器を検索する場合  補足 WSD は、Web Services on Devices の略称です。
WebDAV ポートの起動	Flow Management Option のボックス機能を使う場合
Salutation ポートの起動	Flow Management Option のボックス機能を使う場合
LPD ポートの起動	Flow Management Option のボックス機能を使う場合 プリント管理機能を使う場合
・ 拡張機能の「組み込みプラグイン機能」の有効化 ・ プラグイン / カスタムサービス設定の「組み込みプラグイン機能」の有効化	カスタム認証を使用する場合
プラグイン / カスタムサービス設定の [カスタムサービス] の有効化 ^{*1}	カスタム認証またはカスタムサービスを使用する場合  補足 カスタムサービスが標準搭載の機種は、外部アクセスキットを必要とする機能に制限があります。
機種によって、次のどれが必要 ・ 外部アクセスキットの有効化 ・ カスタマイズ拡張キットの有効化	カスタム認証またはカスタムサービスを使用する場合  補足 機種によって、外部アクセスキットを必要とする機種があります。

項目	備考
受付 IP アドレスの制限	ApeosWare Management Suite サーバーとクライアントを制限しない設定にします。
LPD の追加	

*1 富士ゼロックス製の機器の場合、プラグイン / カスタムサービス設定の【署名検証】の無効化も必要です。



補足

機器に動的な IP アドレスが設定されている場合、ApeosWare Management Suite が正常に動作しないおそれがあります。



参照

機器のマニュアル

ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合



- ・ ApeosWare Management Suite サーバーとの通信を暗号化して運用することを推奨します。
なお、OneDrive および Salesforce と連携する場合は、通信を暗号化する必要があります。
- ・ サーバー証明書の入手先によっては、Web クライアントに CA 証明書のインストールなどが必要になることがあります。必要な作業手順は、サーバー証明書の入手先にお問い合わせください。

1. Internet Information Service で Web サイトを作成します。
2. サーバー証明書を CA（証明機関、認証局）から入手します。
3. Internet Information Service 管理ツールのサーバー証明書の画面で、取得したサーバー証明書をインポートします。
4. Web サイトを任意の名前と物理パスで追加します。
バインド設定で https を選択して、SSL 証明書の欄で、取得したサーバー証明書を選択します。



機器からイメージログを以下のいずれかのサーバーに送信する際の通信を SSL 化する場合、機器に転送先のサーバーのデジタル証明書を設定してください。

- ・ Image Log Management Option をインストールしたメインサーバー
- ・ イメージログサーバー
- ・ イメージログ受信サーバー

機器へのデジタル証明書の設定方法は、お使いの機器のマニュアルを参照してください。



ApeosWare Management Suite をインストールするときに、[Web サイトの選択] で作成した Web サイトを選択して [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。

- ・ 「ApeosWare Management Suite をインストールする」 (P.26)
- ・ 「メインサーバーをセットアップする」 (P.41)
- ・ 「OCR サーバーに ApeosWare Management Suite をインストールする」 (P.46)
- ・ 「フローサーバーをセットアップする」 (P.47)
- ・ 「イメージログサーバーをセットアップする」 (P.48)

Flow Management Option を利用する場合に、追加で必要なソフトウェア / ファイルについて

- ・ Flow Management Option をインストールするサーバーには、次のソフトウェアをインストールする、またはファイルを準備する必要があります。
 - ・ DocuWorks 文書に変換したり OCR 処理したりする場合：
DocuWorks 8.0 以降をインストールします。
 - ・ WebDAV に対応していない機器のボックスから文書を取り込む場合：
ネットワークスキャナーユーティリティ 2 Ver.5.9.4 以降をインストールします。
 - ・ ほかの PC の Flow Management Option で作成したフローを使用する場合：
共有システム ID ファイルを、フローを作成した PC からインストールする PC にコピーします。フローを作成した PC で共有システム ID をダウンロードする手順は、『機能ガイド Flow Management Option 編』の「フローの使用環境を設定する」を参照してください。

- Flow Management Option では、DocuWorks の機能を利用しています。そのため、DocuWorks を新規にインストールするときや、アップデートするときは、次の注意があります。
 < DocuWorks を新規にインストールする場合 >
 Flow Management Option をインストールしたあとに、DocuWorks を新規にインストールする場合は、コンピューターを再起動するか、処理サービスを手動で再起動する必要があります。コンピューターまたは処理サービスの再起動をしない場合は、加工方法に OCR を含むフローの処理は実行できません。
 このとき、以下のログが出力されます。
 「フロー [< フロー名 >] には存在しない機能の処理が含まれているため、利用できません。」
 また、フォーマット変換で DocuWorks を指定しているフローを処理した場合は、エラーは発生しませんが、DocuWorks のフォーマットに変換されず入力文書のフォーマットで出力されます。
 ApeosWare Management Suite Flow Management Service を手動で再起動する方法は、「機能ガイド Flow Management Option 編」をご確認ください。
- Flow Management Option では、一部の複合機のボックスからデータを取り込む際、ネットワークスキャナーユーティリティ 2 を必要とします。
 ネットワークスキャナーユーティリティ 2 を新規にインストールするときや、アップデートするときは、次の注意があります。
 < ネットワークスキャナーユーティリティ 2 を新規にインストールする場合 >
 Flow Management Option をインストールしたあとに、ネットワークスキャナーユーティリティ 2 を新規にインストールする場合は、コンピューターを再起動するか、ApeosWare Management Suite Flow Management Service を手動で再起動する必要があります。
 コンピューターまたは ApeosWare Management Suite Flow Management Service の再起動をしない場合は、取り込み元にボックスを含むフローの処理は実行できません。
 ApeosWare Management Suite Flow Management Service を手動で再起動する方法は、「Flow Management Option 編」をご確認ください。
- Flow Management Option と Salutation プロトコルが競合する以下のいずれかの製品と、同一コンピューター上で同時に使用することはできません。
 これらの製品を使用する場合は、ApeosWare Management Suite Flow Management Service を停止する必要があります。
 - ・ 親展ボックスビューワー
 - ・ ネットワークスキャナーユーティリティ 2

シリアル番号のリストファイルについて

ApeosWare Management Suite のシリアル番号を、リストファイルから読み込んで設定できます。リストファイルを使用すると、複数のシリアル番号を一括して入力できます。

リストファイルは、複数のシリアル番号を改行コード（CRLF）で区切った、テキストファイルで作成します。各シリアル番号には、次のように「-」（ハイフン）を付けます。

1111-2222-3333-4444-5555-6666

2222-3333-4444-5555-6666-7777

3333-4444-5555-6666-7777-8888

ウイルス対策ソフトウェア使用時のインストールについて

ウイルス対策ソフトウェアを使用している環境に ApeosWare Management Suite をインストールする場合は、ウイルス対策ソフトウェアの機能を停止させてからインストールしてください。また、インストール完了後にウイルススキャンの除外対象を設定してください。

インストールと設定の手順は、以下のとおりです。

1. ウイルス対策ソフトウェアの機能を停止します。
2. ApeosWare Management Suite をインストールします。

3. ウイルス対策ソフトウェアの機能を再開します。

4. 以下のフォルダーを、ウイルススキャンの除外対象に設定します。

フォルダーのパスは、初期設定のままインストールした場合です。

■ インストールフォルダー

- C:\Program Files (x86)\FUJIFILM\ApeosWare MS
- C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS

■ データ格納先フォルダー

C:\FUJIFILM\ApeosWare MS\Data

■ データ格納先フォルダー（前バージョン互換用）

- C:\Fuji Xerox\ApeosWare MS 2\Data
- C:\Fuji Xerox\ApeosWare_MS\Data

■ SQL 物理ファイルフォルダー（Flow Management Option 用）

● オールインワン構成の場合

- SQL Server 2012 を利用している場合
{SQL Server のインストール先} \MSSQL11.FXAW\MSSQL\DATA
例：C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL11.FXAW\MSSQL\DATA
- SQL Server 2014 を利用している場合
{SQL Server のインストール先} \MSSQL12.FXAW\MSSQL\DATA
例：C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL12.FXAW\MSSQL\DATA
- SQL Server 2016 を利用している場合
{SQL Server のインストール先} \MSSQL13.FXAW\MSSQL\DATA
例：C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.FXAW\MSSQL\DATA
- SQL Server 2019 を利用している場合
{SQL Server のインストール先} \MSSQL15.FXAW\MSSQL\DATA
例：C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.FXAW\MSSQL\DATA



64 ビット版 OS に 64 ビット版の SQL Server をインストールして利用する場合は、「Program Files」のフォルダー名に「(x86)」はありません。

● 分散構成の場合

{Flow Management Option のインストール先} \db
例：C:\Program Files (x86)\FUJIFILM\ApeosWare MS\db

■ Flow Management Option とスキャン設定の共有フォルダー

■ SQL Server 一時データベース

- SQL Server 2012 を利用している場合
C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL11.FXAW\MSSQL\DATA
- SQL Server 2014 を利用している場合
C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL12.FXAW\MSSQL\DATA
- SQL Server 2016 を利用している場合
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.FXAW\MSSQL\DATA
- SQL Server 2019 を利用している場合
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.FXAW\MSSQL\DATA



SQL Server 2016 と SQL Server 2019 の場合は、「Program Files」のフォルダー名に「(x86)」はありません。

■ ASP.NET

- ・ C:\Windows\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319\Temporary ASP.NET Files
- ・ C:\Windows\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319\Temporary ASP.NET Files



ウイルス対策ソフトなどのセキュリティソフトを使用している場合は、セキュリティソフトの例外設定に以下の URL を追加してください。

- ・ http:// {ホスト名} : {インストール時に設定するポート} /
- ・ https:// {ホスト名} : {インストール時に設定するポート} /
- ・ http:// {ホスト名} :8181/
- ・ https:// {ホスト名} :8183/

IIS (Internet Information Services) のインストールについて

IIS は、インストールされていない場合は、.NET Framework をインストールするときに自動的にインストールされます。

IIS の自動インストールに失敗した場合に、手動でインストールするときは、次のことに注意して操作してください。

Windows 8.1 または Windows 10 の場合

1. コントロールパネル>プログラムと機能> Windows の機能の有効化または無効化をクリックして、Windows の機能の画面を開きます。
2. 「インターネットインフォメーションサービス」を選択して、以下の親コンポーネントおよび子コンポーネントのすべてに、チェックマークが付いているかを確認してください。

■ Windows プロセス起動サービス

- ・ NET 環境
- ・ プロセスモデル
- ・ 構成 API

■ インターネットインフォメーションサービス

- Web 管理ツール
 - ・ IIS 6 と互換性ある管理
 - IIS 6 WMI 互換性
 - IIS 6 スクリプトツール
 - IIS 6 管理コンソール
 - IIS メタベースおよび IIS 6 構成との互換性
 - ・ IIS 管理コンソール

■ World Wide Web サービス

- HTTP 共通機能
 - ・ HTTP エラー
 - ・ ディレクトリの参照
 - ・ 既定のドキュメント
 - ・ 静的なコンテンツ
- アプリケーション開発機能
 - ・ .NET 拡張機能
 - ・ ASP.NET
 - ・ ISAPI フィルター
 - ・ ISAPI 拡張機能
- セキュリティ

- ・ 要求のフィルタリング
- パフォーマンス機能
 - ・ 静的コンテンツ圧縮
- 状態と診断
 - ・ HTTP ログ
 - ・ 要求の監視

3. チェックマークが外れている機能が存在する場合、その機能をインストールしてから再度 ApeosWare Management Suite をインストールしてください。

- OS によって一部の機能名称、操作手順が異なる場合があります。
- IIS をインストールした初期状態で有効なコンポーネントはチェックマークを外さないでください。チェックマークを外すと、不具合が発生する場合があります。



ApeosWare Management Suite 用のアプリケーションプールの設定で、[32 ビットアプリケーションの有効化] を [False] (初期値) に設定されている必要があります。[True] に設定すると、ApeosWare Management Suite が動作しません。

Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016 および Windows Server 2019 の場合

1. サーバーマネージャーの役割と機能の追加ウィザードで、サーバーの役割の選択画面を開きます。
2. 「Web サーバー (IIS)」を選択して、以下の親コンポーネントおよび子コンポーネントのすべてに、チェックマークが付いているかを確認してください。

■ Web サーバー

- HTTP 共通機能
 - ・ HTTP エラー
 - ・ ディレクトリの参照
 - ・ 既定のドキュメント
 - ・ 静的なコンテンツ
- セキュリティ
 - ・ 要求フィルター
 - ・ Windows 認証



「Windows 認証」は、「Paper Form Management」をインストールするときに必要です。

- パフォーマンス
 - ・ 静的なコンテンツの圧縮
- 状態と診断
 - ・ HTTP ログ
 - ・ 要求監視
- アプリケーション開発機能
 - ・ .NET 拡張機能
 - ・ ASP.NET
 - ・ ISAPI フィルター
 - ・ ISAPI 拡張

■ 管理ツール

- IIS 6 互換管理
 - ・ IIS メタベース互換

- ・ IIS 6 WMI 互換性
- ・ IIS 6 スクリプトツール
- ・ IIS 6 管理コンソール

3. 続いて、機能の選択画面を開きます。

4. 「Windows プロセス起動サービス」を選択して、以下のコンポーネントのすべてに、チェックマークが付いているかを確認してください。

- ・ NET 環境
- ・ プロセスモデル
- ・ 構成 API

5. チェックマークが外れている機能が存在する場合、その機能をインストールしてから再度 ApeosWare Management Suite をインストールしてください。

- ・ OS によって一部の機能名称、操作手順が異なる場合があります。
- ・ IIS をインストールした初期状態で有効なコンポーネントはチェックマークを外さないでください。チェックマークを外すと、不具合が発生する場合があります。



ApeosWare Management Suite 用のアプリケーションプールの設定で、[32 ビットアプリケーションの有効化] を [False] (初期値) に設定されている必要があります。[True] に設定すると、ApeosWare Management Suite が動作しません。

SQL Server について

SQL Server が必要なサーバー

次のサーバーには、SQL Server をインストールする必要があります。

オールインワン構成 / 多重化サーバー構成の場合

- ・ メインサーバー

分散構成の場合

- ・ メインサーバー
- ・ レポートサーバー
- ・ プリントアプリケーションサーバー
- ・ フローサーバー

データベースを分離する場合は、データベースサーバーに SQL Server をインストールする必要があります。

SQL Server のインストール

SQL Server 2019 は、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに含まれていて、ApeosWare Management Suite をインストールするときに自動でインストールされます。自動でインストールすると、「FXAW」という名前のインスタンスが作成されます。

ApeosWare Management Suite 2 SQL Server Standard Media Set を購入したときは、そのメディアからインストールできます。

すでにインストールされている SQL Server がある場合は、そのまま使用できます。



- ・ DVD-ROM から SQL Server をインストールしない場合、SQL Server Browser サービスの設定の変更が必要な場合があります。
Windows の管理ツールからサービスの [スタートアップの種類] を [自動] に設定して、開始してください。
表示名とサービス名は次のとおりです。

- 表示名：SQL Server Browser
- サービス名：SQLBrowse
- ・メディア内の SQL Server 2019 Express の Setup.exe を直接実行してインストールすることはできません。

メディアに含まれる SQL Server をインストールする手順は次のとおりです。

SQL Server 2019 を手動でインストールする場合

次の操作でインストールします。

1. DVD-ROM を、DVD ドライブに挿入します。
2. 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックします。
3. 表示されたウィンドウの [Microsoft SQL Server 2019] をダブルクリックします。
4. 以降は、画面の指示と次の表の設定に従ってインストールしてください。

項目	設定内容
機能の選択	[データベース エンジン サービス] を選択
インスタンス名	任意の名前を設定できます (「FXAW」を推奨)
認証モード	[混合モード (SQL Server 認証と Windows 認証)] を指定します。
SQL Server 管理者	[Administrators] を指定します。

5. インストールが終了したら、PC を再起動します。



- ・ SQL Server 2019 Express を手動でインストールした場合は、必ず PC を再起動してください。再起動しないと、ApeosWare Management Suite をインストールできません。
- ・ インストール先ドライブのデフォルトは C ドライブです。デフォルトから変更することも可能です。

ApeosWare Management Suite 2 SQL Server Standard Media Set を購入した場合

次の操作でインストールします。

1. DVD-ROM を、DVD ドライブに挿入します。
2. 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックします。
3. 表示されたウィンドウの [Microsoft SQL Server 2019 Express] または [Microsoft SQL Server 2019 Standard] をダブルクリックします。
4. 以降は、画面の指示と「SQL Server 2019 を手動でインストールする場合」(P.23) の内容に従ってインストールしてください。
5. インストールが終了したら、PC を再起動します。



- ・ ApeosWare Management Suite 2 SQL Server Standard Media Set からインストールした場合は、必ず PC を再起動してください。再起動しないと、ApeosWare Management Suite をインストールできません。
- ・ インストール先ドライブのデフォルトは C ドライブです。デフォルトから変更することも可能です。

SQL Server が使用するポートを設定する

次の操作で SQL Server が使用するポートを設定します。



補足

- ・ ApeosWare Management Suite が使用する SQL Server のポート番号と、他の既存のアプリケーションが使用する SQL Server のポート番号が競合している場合は、他の既存のアプリケーションが正常に動作しません。他のアプリケーションと競合しないポート番号を使用するように設定してください。
- ・ 以下の手順は Windows Server 2019 の場合の操作例です。ご使用の OS および SQL Server のバージョンに合わせて操作してください。

1. [スタート] > [Microsoft SQL Server 2019] > [SQL Server 2019 構成マネージャー] の順に選択します。

2. 次の操作をします。

例として ApeosWare Management Suite で使用する SQL Server インスタンスを「FXAW」、ポート番号を「1433」とした場合の操作を示します。

(1) 左ペイン (ツリーペイン) で [SQL Server ネットワーク構成] の下にある、ApeosWare Management Suite で使用する SQL Server インスタンス名のプロトコルを選択します。

例 [FXAW のプロトコル]

(2) 右ペインで [TCP/IP] を右クリックし、[有効化] を選択します。

(3) [TCP/IP] をダブルクリックします。

(4) [IP アドレス] タブをクリックします。

(5) [IP1] から [IP All] まですべての [TCP ポート] に「1433」を入力し、[有効] を [はい] にします。

(6) [OK] をクリックします。

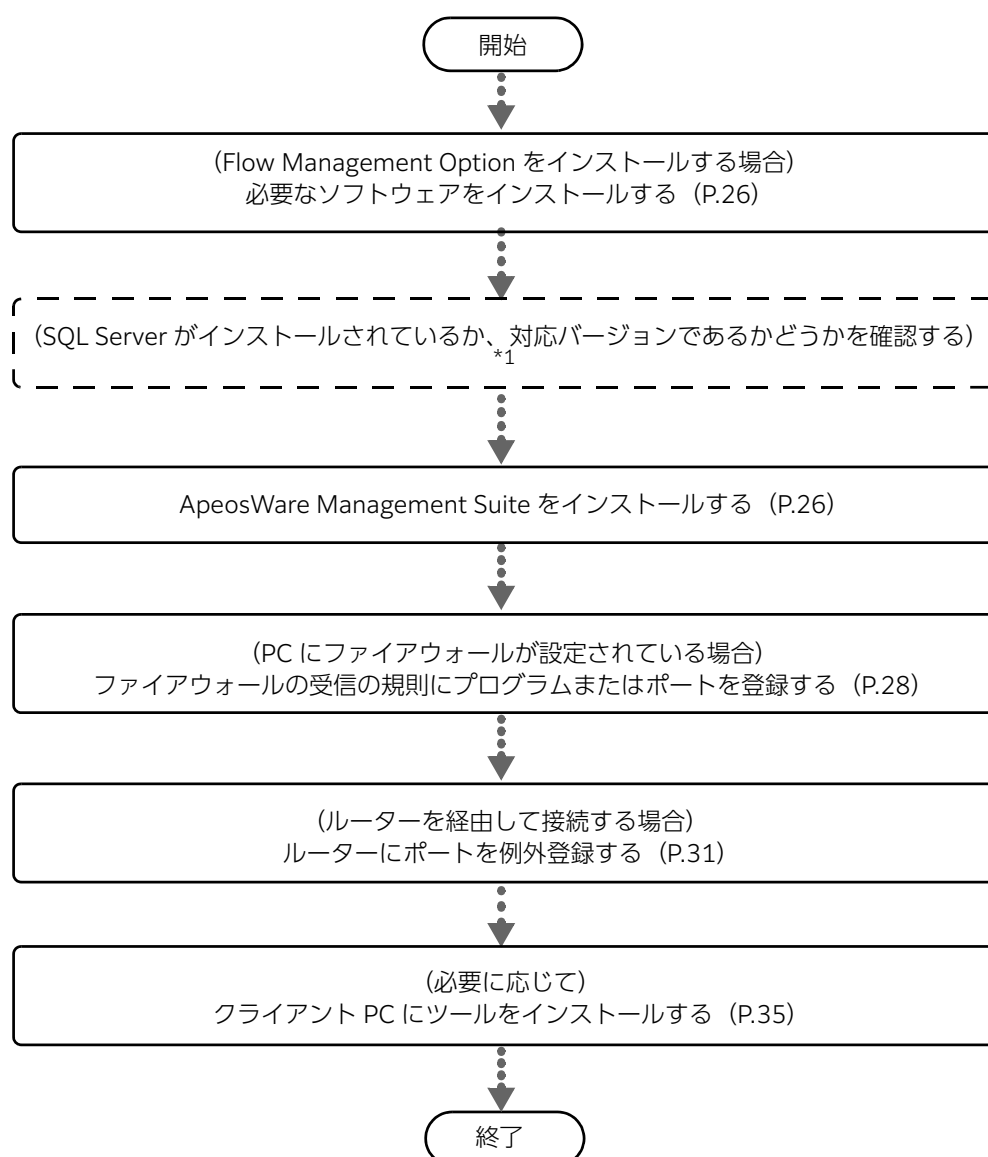
(7) [SQL Server のサービス] で ApeosWare Management Suite で使用する SQL Server を右クリックし、[再起動] を選択します。

例 SQL Server (FXAW)

3. すでに ApeosWare Management Suite がインストールされている場合は、『導入・運用ガイド』の「サーバーの情報の変更」の -DN オプションの指定手順を参照して、データベースのポート番号を変更してください。

オールインワン構成のセットアップ

セットアップの流れ



*1 すでに使用している SQL Server があるときは、そのまま使用できます。ApeosWare Management Suite を使用するために必要な動作環境の最新の情報については、弊社公式サイトをご覧ください。



補足

Flow Management Option、Paper Form Editor、Paper Form Management をインストールする場合は、インストールパスに「c:\Program Files¥」を指定しないでください。Flow Management Option、Paper Form Editor、Paper Form Management は WOW64 エミュレーションレイヤー・サブシステム上で動作するため、予期しない問題が起こる可能性があります。

必要なソフトウェアをインストールする

Flow Management Option をインストールする場合は、インストールの前に、必要なソフトウェア (DocuWorks、ネットワークスキャナーユーティリティ 2) やファイルを、PC にインストールまたはコピーします。

詳しくは、「Flow Management Option を利用する場合に、追加で必要なソフトウェア / ファイルについて」(P.17) を参照してください。

SQL Server 2019 Standard をインストールする

SQL Server 2019 Standard を使用する場合は、PC にインストールします。

インストール手順や必要な設定については、「SQL Server のインストール」(P.22) を参照してください。



- ・すでに使用している SQL Server があるときは、そのまま使用できます。
- ・インストーラーに含まれる SQL Server 2019 Express を使用する場合は、この操作は必要ありません。

ApeosWare Management Suite をインストールする

サーバーに ApeosWare Management Suite をインストールします。次の 2 つの方法があります。

- DVD-ROM からインストールする場合 (P.26)
- ダウンロードしたファイルからインストールする場合 (Entry Edition のみ) (P.28)

DVD-ROM からインストールする場合

1. ApeosWare Management Suite を、次の手順でインストールします。

(1) DVD-ROM を、DVD ドライブに挿入します。

(2) 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。

ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックします。

(3) 表示されたウィンドウの [ApeosWare Management Suite] をダブルクリックします。



(4) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

- [シリアル番号の入力] 画面で、ApeosWare Management Suite のシリアル番号を入力します。シリ

アル番号は、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに同梱された「ライセンス証書」に記載されています。

- 体験版のシリアル番号を指定した場合は、体験版がインストールされます。
シリアル番号のリストファイルをインポートすることもできます。「シリアル番号のリストファイルについて」(P.18) を参照してください。
- Enterprise Edition でコスト管理機能を使用する場合は、[セットアップタイプ] 画面で [Cost Recovery 機能を有効にする] にチェックマークを付けます。
- [IIS の Web サイトの設定] 画面が表示された場合は、Internet Information Service の Web サイトを設定します。
「ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合」(P.17) を実行した場合は、[IIS から既定の Web サイトを選択して使用する] を選択し、事前に作成した Web サイトを指定します。また、[バインド設定] の [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。
- [SQL Server 情報] 画面で、使用するデータベースを指定します。
 - インストーラーに含まれる SQL Server 2019 を自動でインストールする場合
[SQL Server 2019 を新規インストールする] を選択します。
 - すでに SQL Server がインストールされている場合
[既存の SQL Server を使用する] を選択し、[参照] をクリックして、使用するデータベースのインスタンスを選択します。
認証方法に [SQL Server 認証] を選択した場合は、SQL Server への接続に使用するユーザー名とそのパスワードも指定します。
- [インストール情報の確認] 画面で、ソフトウェアのインストール先とデータ格納先を指定します。
- [一時保存フォルダーの設定] 画面で、機器とのデータ受け渡しに使用する一時保存フォルダーを指定します。
- インストール中にライセンス管理画面（ライセンス認証するツール）が起動した場合は、「インターネット経由でライセンスを認証する」(P.56) を参照してください。

2. Flow Management Option をインストールする場合は、次の手順を実行します。

(1) [機能別一覧] タブにある [Flow Management] をダブルクリックします。

(2) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

- [シリアル番号の入力] 画面で、「ライセンス証書」に記載されたシリアル番号を入力します。
体験版としてインストールする場合は、何も入力しないまま [次へ] をクリックします。
- [セットアップタイプの指定] 画面で、[一般構成] を選択します。
- [共有システム ID の指定] が表示された場合は、次の操作をします。
 - ほかの PC の Flow Management で作成したフローを使用しない場合
(1) [共有システム ID を指定しない] を選択します。
 - ほかの PC の Flow Management で作成したフローを使用する場合
(1) [共有システム ID を指定する] を選択します。
(2) [参照] をクリックして、共有システム ID ファイルを選択します。
共有システム ID ファイルの初期状態の名前は「AWFMSYSTEMIDDownload_ {年月日時分秒} .ini」です。
- インストール中にライセンス管理画面（ライセンス認証するツール）が起動した場合は、「インターネット経由でライセンスを認証する」(P.56) を参照してください。



- 次のオプションは、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに付属した DVD-ROM で該当する言語を選択した場合にインストールできます。
 - OCR for DocuWorks Multi Language Option (日本語と英語以外の言語に対応)
 - OCR for DocuWorks English License
 - OCR for DocuWorks Japanese Option
- 次のオプションは、Windows のシステムロケールで該当する言語を選択した場合にインストールできます。
 - Attribute Processing Option
 - Database Query Option
 - OmniPage Barcode Reader Option
 - Scan OCR Option

3. Image Log Management をインストールする場合は、次の手順を実行します。

(1) [機能別一覧] タブにある [Image Log Management] をダブルクリックします。

(2) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

- [シリアル番号の入力] 画面で、「ライセンス証書」に記載された次のシリアル番号を入力します。
 - ・ ILM コアサーバーライセンス
ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option Registering Server License (MSDS)
 - ・ ILM 受信サーバーライセンス
ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option Receiving Server License (MSDT)
 - ・ ABBYY OCR ライセンス
ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR License (MSDU)、または ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR CJK Thai License (MSDV)



- OCR 機能を使用するときに、ABBYY OCR ライセンスまたは OmniPage OCR ライセンスのどちらかが必要です。
- ABBYY OCR を使用する場合は、ABBYY OCR ライセンスが必要となります。オールインワン構成で OmniPage OCR を使用する場合は、Scan OCR Option ライセンスは不要です。
- [セットアップタイプの指定] 画面で、[メインサーバーにセットアップ] を選択します。
- [IIS の Web サイトの設定] 画面が表示された場合は、Internet Information Service の Web サイトを設定します。
「ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合」(P.17) を実行したときは、[IIS から既定の Web サイトを選択して使用する] を選択し、事前に作成した Web サイトを指定します。また、[バインド設定] の [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。

4. インストールが終了したら、[機能別一覧] タブにある Update Service をダブルクリックします。

インストーラーが起動するので、画面の指示に従って Update Service をインストールします。

5. 必要に応じて、[機能別一覧] タブにある、そのほかのソフトウェアをインストールします。



このあと、フローを作成してから DocuWorks またはネットワークスキャナーユーティリティ 2 をインストールした場合は、インストールしたあと、PC または Flow Management サービスを再起動してください。再起動しないと、フローが正しく動作しません。

ダウンロードしたファイルからインストールする場合 (Entry Edition のみ)

1. ダウンロードした ApeosWare Management Suite の圧縮ファイルを解凍します。

2. 「AWMS.exe」をダブルクリックします。

3. 以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。



「DVD-ROM からインストールする場合」(P.26) の手順 1- (4)

ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する

ApeosWare Management Suite をインストールする PC にファイアウォールが設定されている場合、設定の変更が必要なことがあります。

下記のプログラムおよびポートを、ファイアウォールの受信の規則で、接続を許可するプログラムとして登録してください。詳細な手順は Microsoft のホームページを参照してください。

また送信の規則については、既定の動作のままとして制限しないでください。



サーバー構成やオプション設定によっては、サーバーにインストールされていないプログラムもあります。イン

ストールされているプログラムを、ファイアウォールの受信の規則で接続を許可するプログラムとして登録してください。

ファイアウォールの受信の規則で接続を許可するプログラム

機能またはサービス名	プログラム *1	登録条件
SQL Server 2012	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL11.FXAW\MSSQL\Binn\Sqlservr.exe	-
SQL Server 2014 Express	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL12.FXAW\MSSQL\Binn\Sqlservr.exe	-
SQL Server 2016	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.FXAW\MSSQL\Binn\Sqlservr.exe	-
SQL Server 2019	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.FXAW*2\MSSQL\Binn\Sqlservr.exe	-
SQL Server (Browser)	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Shared\sqlbrowser.exe	-
ファイルとプリンターの共有	-	プリント管理の論理プリンターに Windows 共有プリンターでプリントする場合
ApeosWare Management Suite Core Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\JDK-11.0.6+10\bin\java.exe	-
ApeosWare Management Suite Multi Task Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\WinSvc\WindowsServiceHost\FujiFilm.FB.ApeosWare.SF.Application.WindowsServiceHost.exe	-
ApeosWare Management Suite Monitoring Service	- C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\WinSvc\Mon\bin\MonSvc.exe - C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\JDK-11.0.6+10\bin\java.exe	Monitoring Service でメールを送信する場合
ApeosWare Management Suite Printer Port Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\WinSvc\IncomingGW\awpmincominggw.exe	-
ApeosWare Management Suite Email Print Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\WinSvc\EmailPrint\EmailPrint.exe	-

*1 「FUJIFILM」 フォルダにあるプログラムのパスは、初期設定のままインストールした場合です。

*2 「MSSQL15.FXAW」 は、ApeosWare Management Suite のインストーラーに含まれる SQL Server 2019 を自動でインストールした場合です。それ以外の SQL Server を使用している場合は、SQL Server のバージョンと指定したインスタンス名によって変わります。

ファイアウォールの受信の規則で接続を許可するプログラム (Flow Management Option をインストールした場合)

機能またはサービス名	プログラム *1	登録条件
AWFM FTP 出力	C:\Program Files (x86)\FUJIFILM\ApeosWare MS\FM\axis2c\bin\axis2_pipe_server.exe	Flow Management Option の [フォルダー保存] 機能で、文書の保存先に [仮想ディレクトリー (FTP)] を選択して、FTP のパッシブモードを使用しない場合
AWFM プリント / ファクス出力	C:\Program Files (x86)\FUJIFILM\ApeosWare MS\FM\jre\bin\java.exe	Flow Management Option のプリント / ファクス出力を使用する場合

機能またはサービス名	プログラム *1	登録条件
Salutation Daemon	C:\WINDOWS\SysWOW64\fxssl12.exe	Flow Management Option の [ボックス] 機能を使用して、機器のボックスとのアクセスにネットワークスキャナーユーティリティ2を使用する場合
SQL Server 2012	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL11.FXAW\MSSQL\Binn\sqlservr.exe	-
SQL Server 2014 Express	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL12.FXAW\MSSQL\Binn\Sqlservr.exe	-
SQL Server 2016 Standard SQL Server 2016 Express	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.FXAW\MSSQL\Binn\Sqlservr.exe	-
SQL Server 2019 Standard SQL Server 2019 Express	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.FXAW*2\MSSQL\Binn\Sqlservr.exe	-
SQL Server (Browser)	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Shared\sqlbrowser.exe	-

*1 「FUJIFILM」フォルダーにあるプログラムのパスは、初期設定のままインストールした場合です。

*2 「MSSQL15.FXAW」は、ApeosWare Management Suite のインストーラーに含まれる SQL Server 2019 を自動でインストールした場合です。それ以外の SQL Server を使用している場合は、SQL Server のバージョンと指定したインスタンス名によって変わります。

ファイアウォールの受信の規則で接続を許可するプログラム (Image Log Management をインストールした場合)

機能またはサービス名	プログラム *1	登録条件
ApeosWare Management Suite Image Log Management Receive Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\Image Log Management\awilm-services\awilm-receiver\bin\AWMSILMReceiveService.exe	-
ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\Image Log Management\awilm-services\awilm-core\bin\AWMSILMCoreService.exe	-
ApeosWare Management Suite Image Log Management Search Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\Image Log Management\awilm-services\awilm-search\bin\AWMSILMSearchService.exe	-
Monitoring Service	C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS\WinSvc\Mon\bin\MonSvc.exe	Monitoring Service でメールを送信する場合

*1 「FUJIFILM」フォルダーにあるプログラムのパスは、初期設定のままインストールした場合です。

ファイアウォールの受信の規則で接続を許可するポート

機能またはサービス名	通信プロトコル	ポート	TCP/UDP
ApeosWare Management Suite Core Service	HTTP	8181	TCP
ApeosWare Management Suite Core Service	HTTPS	8183	TCP
World Wide Web Publishing Service	HTTP	80	TCP
World Wide Web Publishing Service	HTTPS	443	TCP
ApeosWare Management Suite Core Service	ICMPv4	N/A	-
World Wide Web Publishing Service	ICMPv4	N/A	-
ApeosWare Management Suite Image Log Management Search Service	HTTPS	18983	TCP



「80」 および 「443」 は既定のポート番号です。インストール時に指定した Web サイトのバインド情報を参照してください。

Windows ファイアウォールの例外を登録する

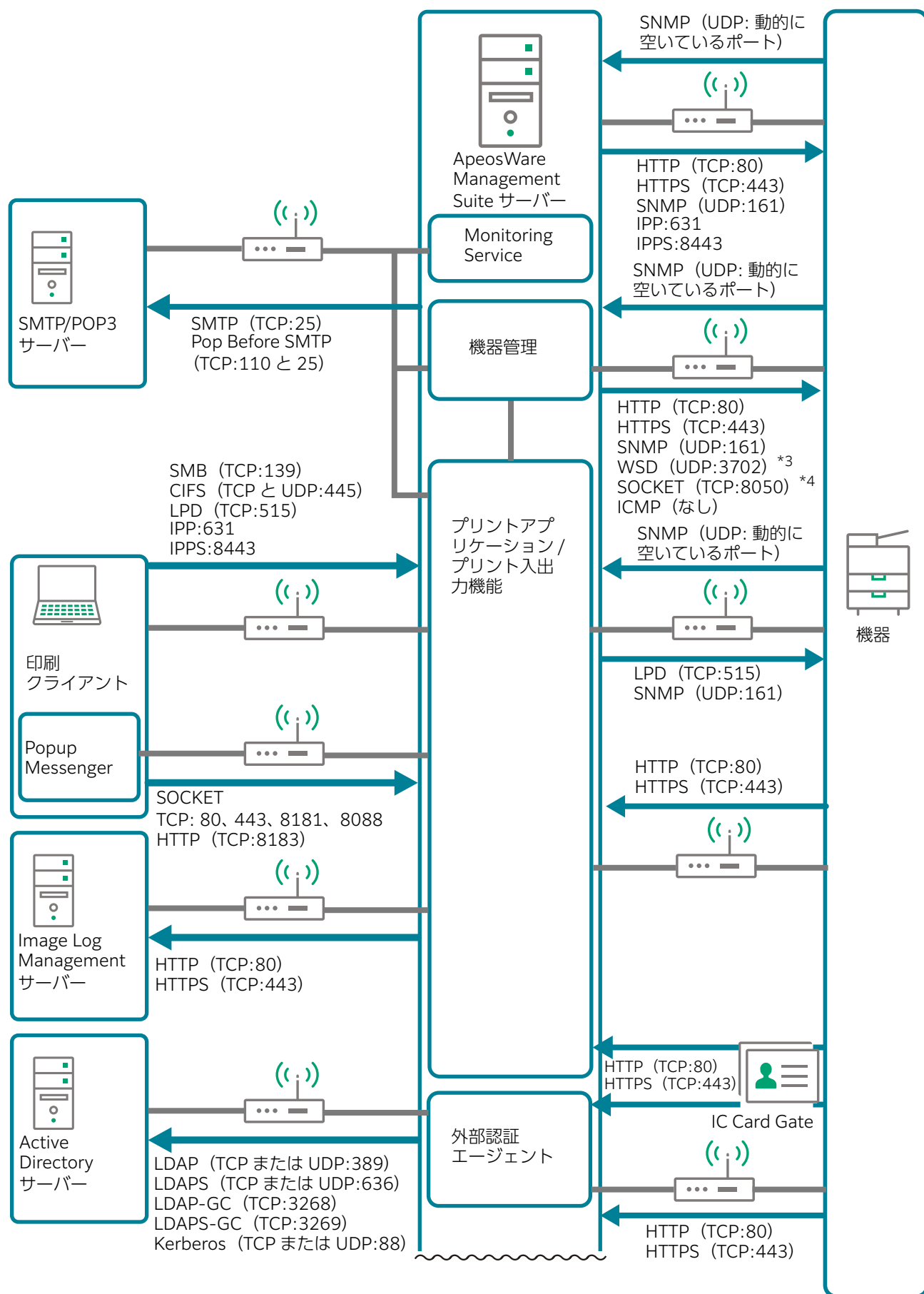
Windows ファイアウォールが有効になっている場合は、無効にする、または Windows のヘルプなどを参照して例外を登録してください。

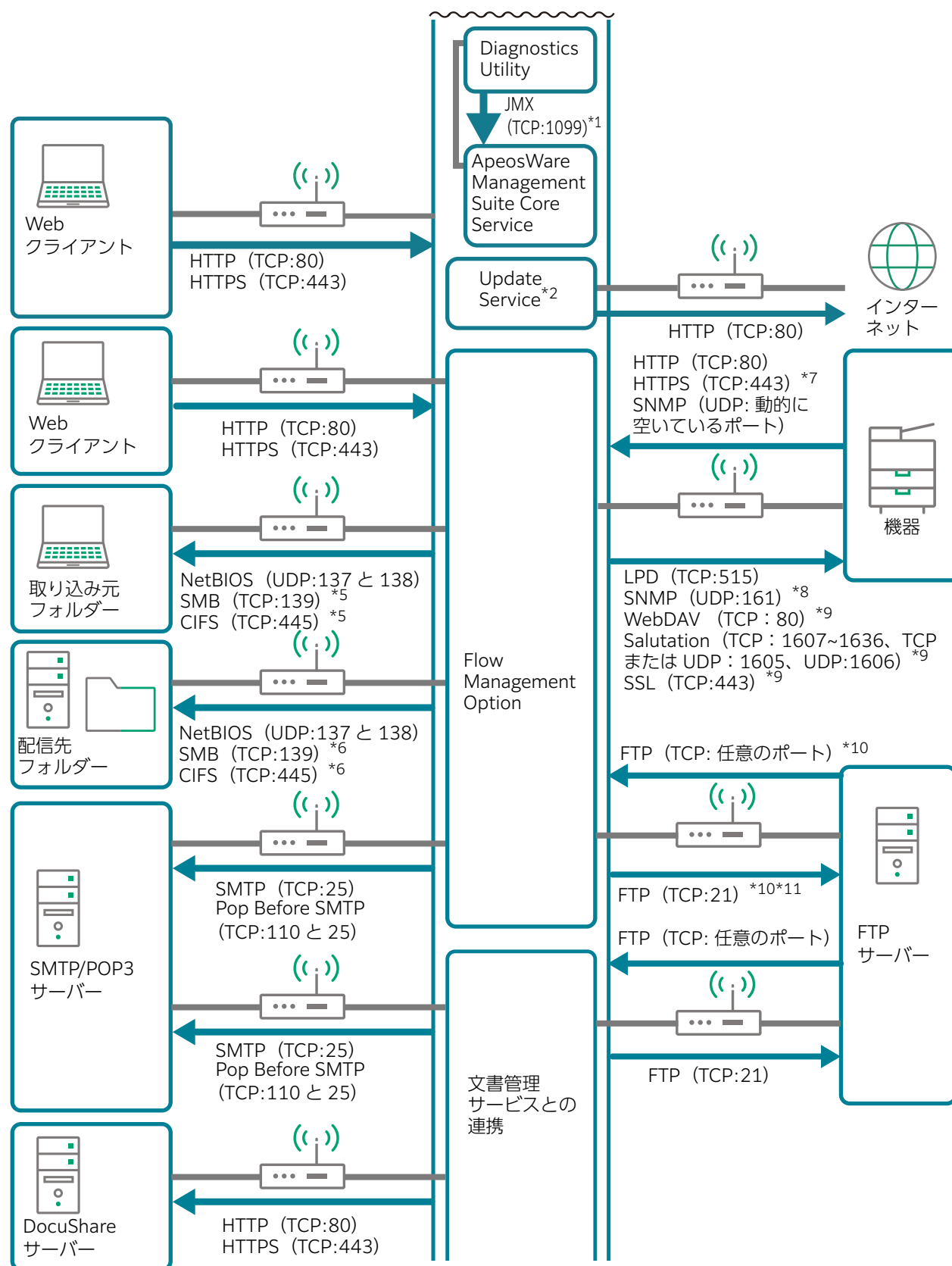
その他のファイアウォールの設定

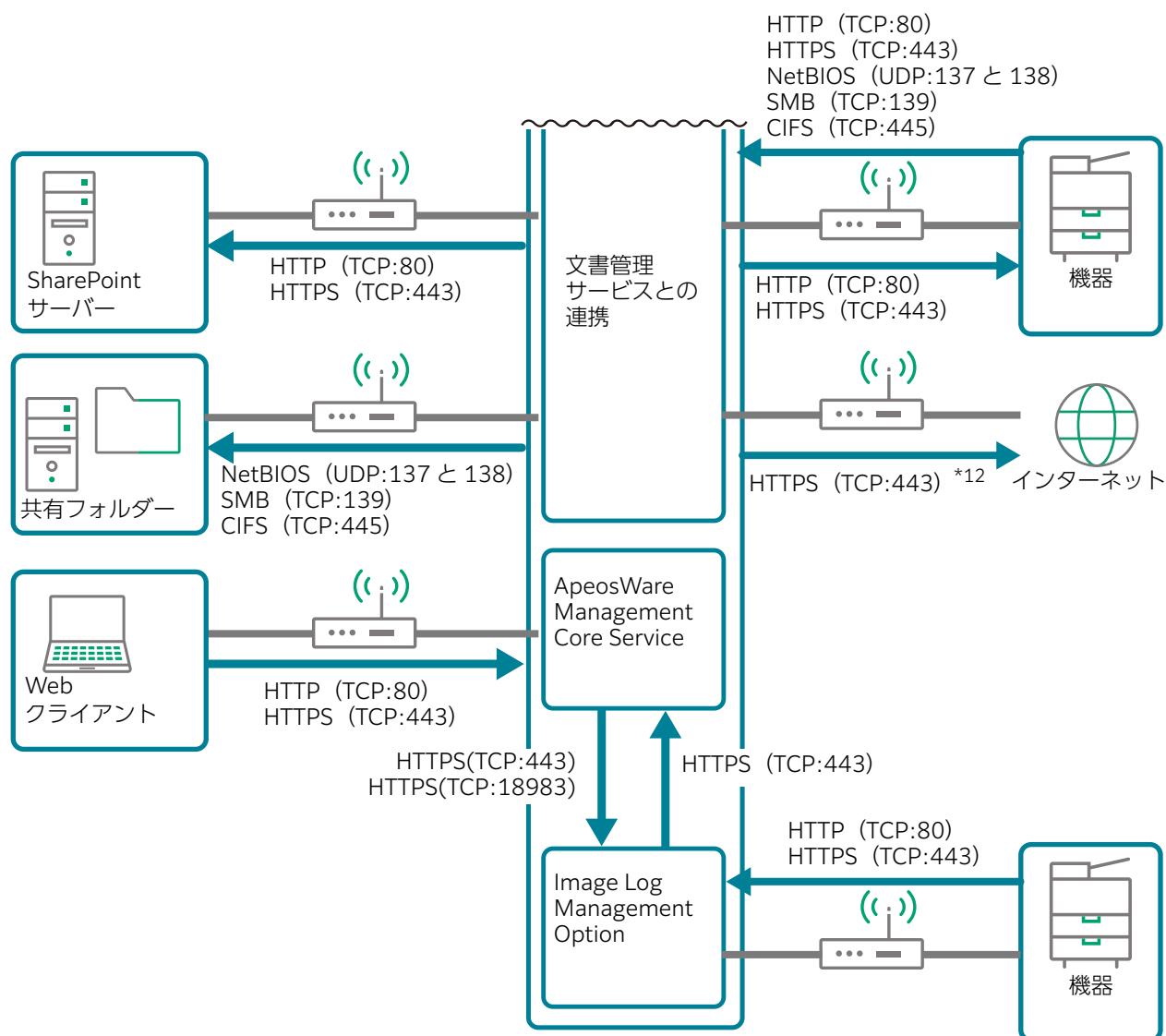
Windows ファイアウォール以外のファイアウォール、およびファイアウォール機能を持ったアンチウイルスなどの製品がインストールされている場合、それらの設定の変更が必要なときがあります。「ファイアウォールの受信の規則で接続を許可するプログラム」(P.29)、および「ファイアウォールの受信の規則で接続を許可するプログラム (Flow Management Option をインストールした場合)」(P.29) の項目を、ファイアウォールの例外に登録してください。操作については、ファイアウォール、アンチウイルス製品のマニュアルを参照してください。

ルーターにポートを例外登録する

ApeosWare Management Suite のサーバーからルーターを経由して機器などと接続する場合に、許可するプロトコルとポート番号を説明します。外部のサーバーや機器でポート番号を変更している場合は、変更後の内容に合わせてください。







- *1 Diagnostics Utility で、ApeosWare Management Suite の情報を取得するときに利用します。
ApeosWare Management Suite サーバー内で利用するため、ルーターにポートの例外登録を行う必要はありません。
- *2 ほかのサーバーやクライアントにインストールしている場合も、同様です。
- *3 WSD で機器検索する場合。WSD は、Web Services on Devices の略称です。
- *4 XCP プラグインを使って、認証する IC カードリーダーや認証装置をカスタマイズするときなどに必要です。
- *5 [フォルダー] 機能で、共有フォルダーから文書を取り込む場合に必要です。
- *6 次のどれかに該当する場合に設定します。
 - ・ [フォルダー保存] 機能で、文書を共有フォルダーに保存する場合
 - ・ [文書属性の対応表出力] 機能で、文書属性の CSV ファイルを共有フォルダーに出力する場合
 - ・ [フォーム解析] 機能を使用する場合
 - ・ [フォーム解析結果出力] 機能を使用する場合
- *7 [外部アクセス連携] 機能でスキャン文書を取り込む場合に必要です。
- *8 [プリンター出力] 機能で、文書をプリントまたはファクスする場合に必要です。
- *9 [ボックス] 機能で、ボックスから文書を取り込む場合に必要です。機器との接続方法によって、WebDAV または Salutation のどちらかを設定します。どちらを設定するかは、機種によって異なります。WebDAV を使用し、機器との通信を SSL で暗号化する場合は、「SSL (TCP:443)」の設定も必要です。
- *10 [フォルダー保存] 機能で、文書を FTP サーバー上のフォルダーに保存する場合に必要です。
- *11 21 番以外のポートも設定できます。
- *12 Working Folder、Salesforce、または Google ドライブを利用する場合です。

クライアント PC にツールをインストールする

必要に応じて、クライアント PC に各種ツールをインストールします。次の 2 つの方法があります。

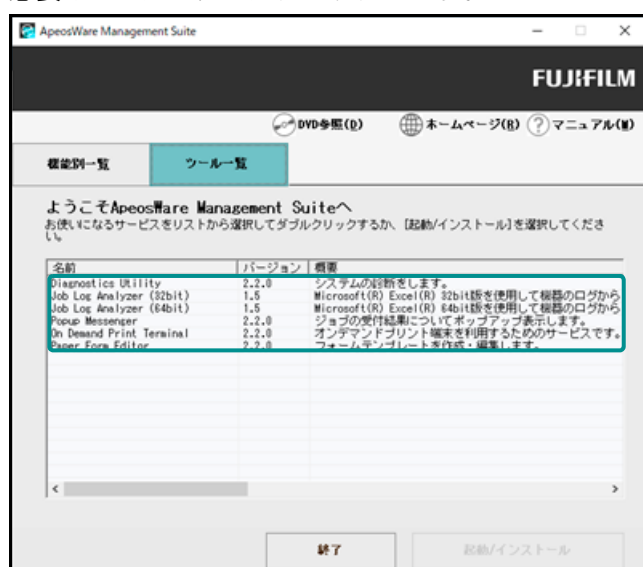
- DVD-ROM からインストールする場合 (P.35)
- ダウンロードしたファイルからインストールする場合 (Entry Edition のみ) (P.35)



Popup Messenger のインストールについては、『機能ガイド』の「Popup Messenger のインストール」を参照してください。

DVD-ROM からインストールする場合

1. DVD-ROM (Edition メディア) を DVD ドライブに挿入します。
2. 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。
3. [ツール一覧] タブをクリックします。
Update Service および Paper Form Management をインストールする場合は、[機能別一覧] タブをクリックします。
4. 必要なツールをダブルクリックします。



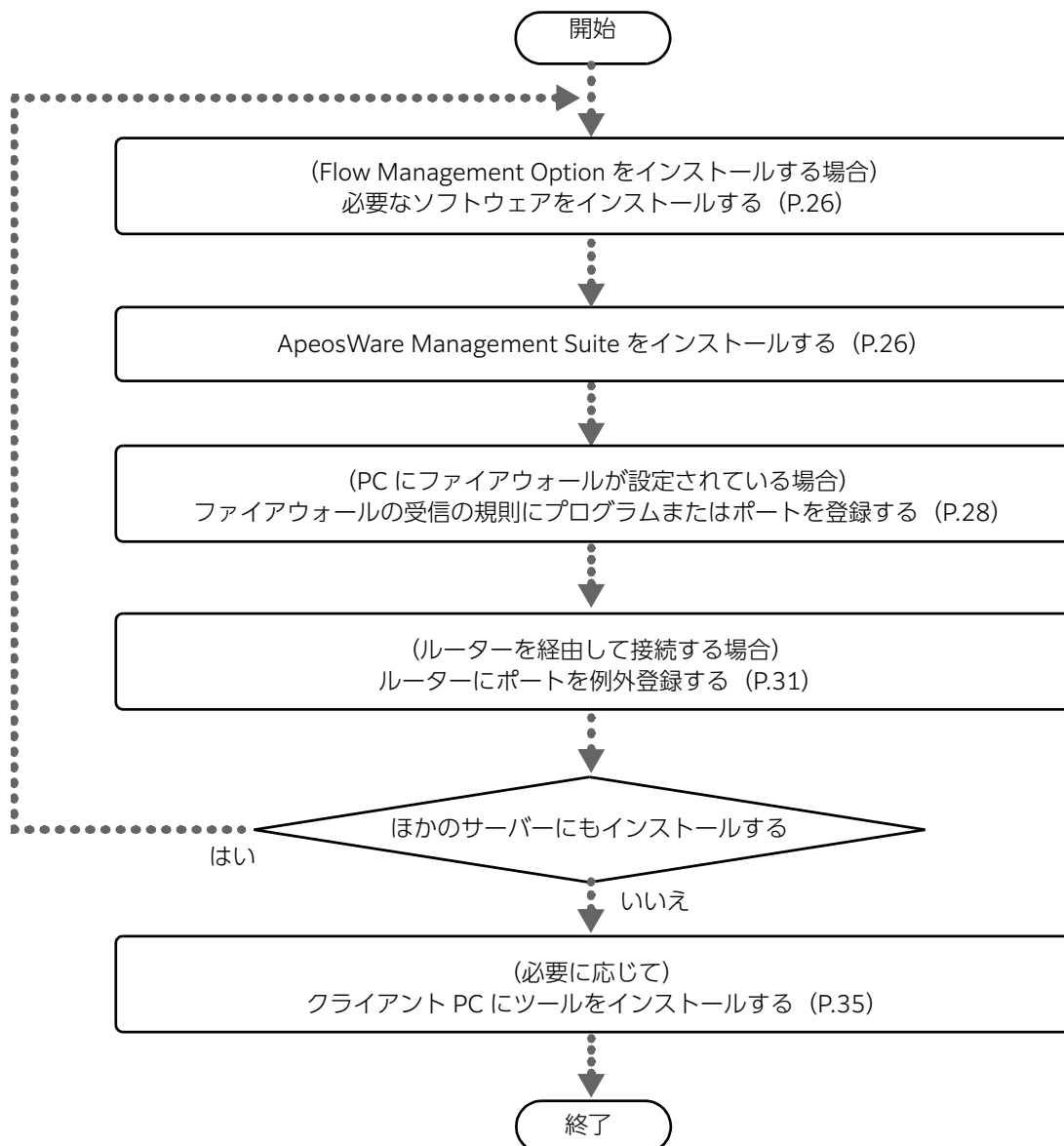
以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

ダウンロードしたファイルからインストールする場合 (Entry Edition のみ)

1. ダウンロードしたツールの圧縮ファイルを解凍します。
2. 「setup.exe」をダブルクリックします。
以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

多重化サーバー構成のセットアップ

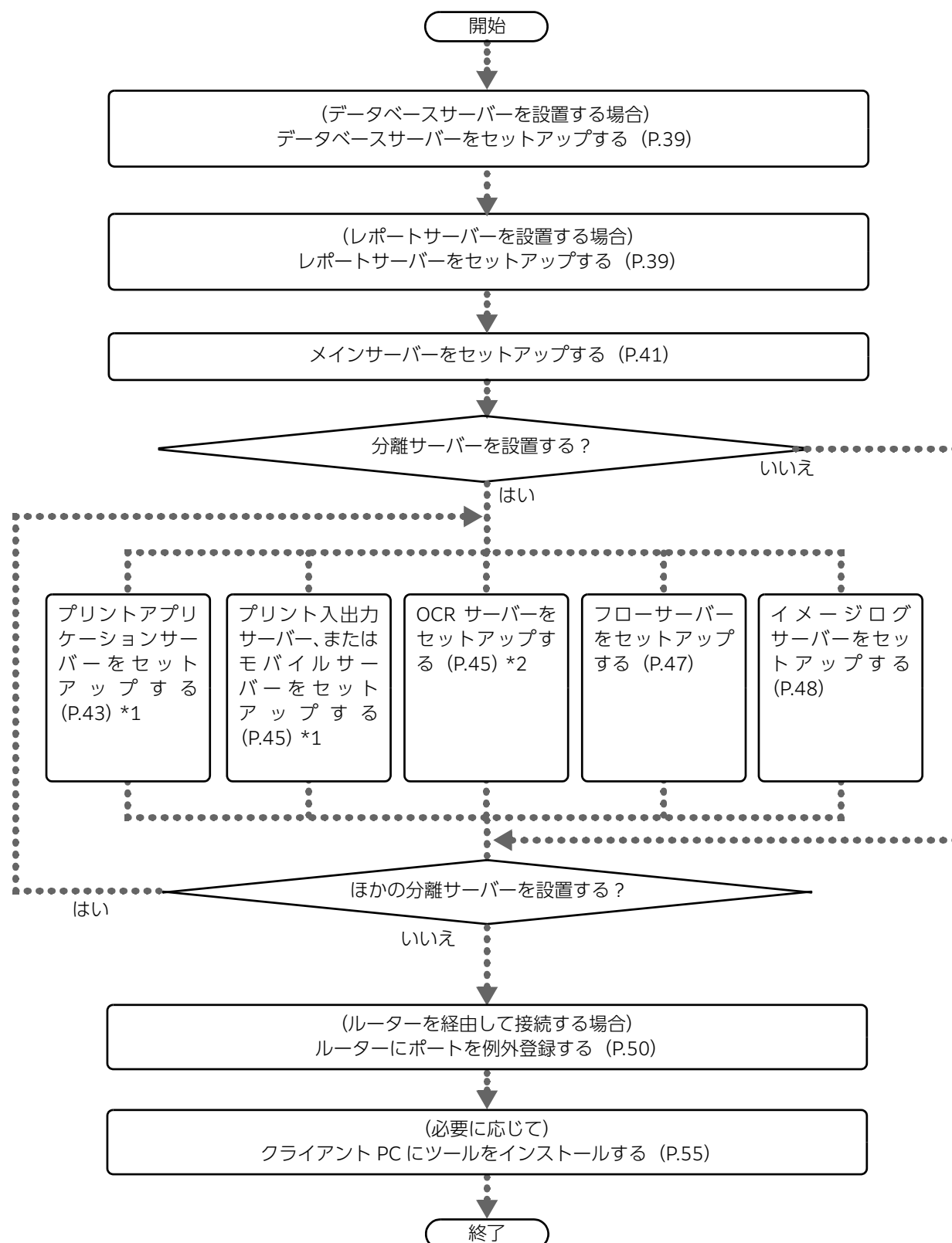
多重化サーバー構成は Enterprise Edition だけのサポートです。次の手順でセットアップします。



分散構成のセットアップ

セットアップの流れ

Enterprise Edition の場合



- *1 プリントアプリケーションサーバーとプリント入出力サーバーの混在はできません。
また、プリントアプリケーションサーバーを設置した場合、次のオプションは使用できません。
Cost Recovery Option
On Demand Print Terminal
- *2 OCR サーバーでセットアップ後、メインサーバーで OCR Config Utility を実行する必要があります。

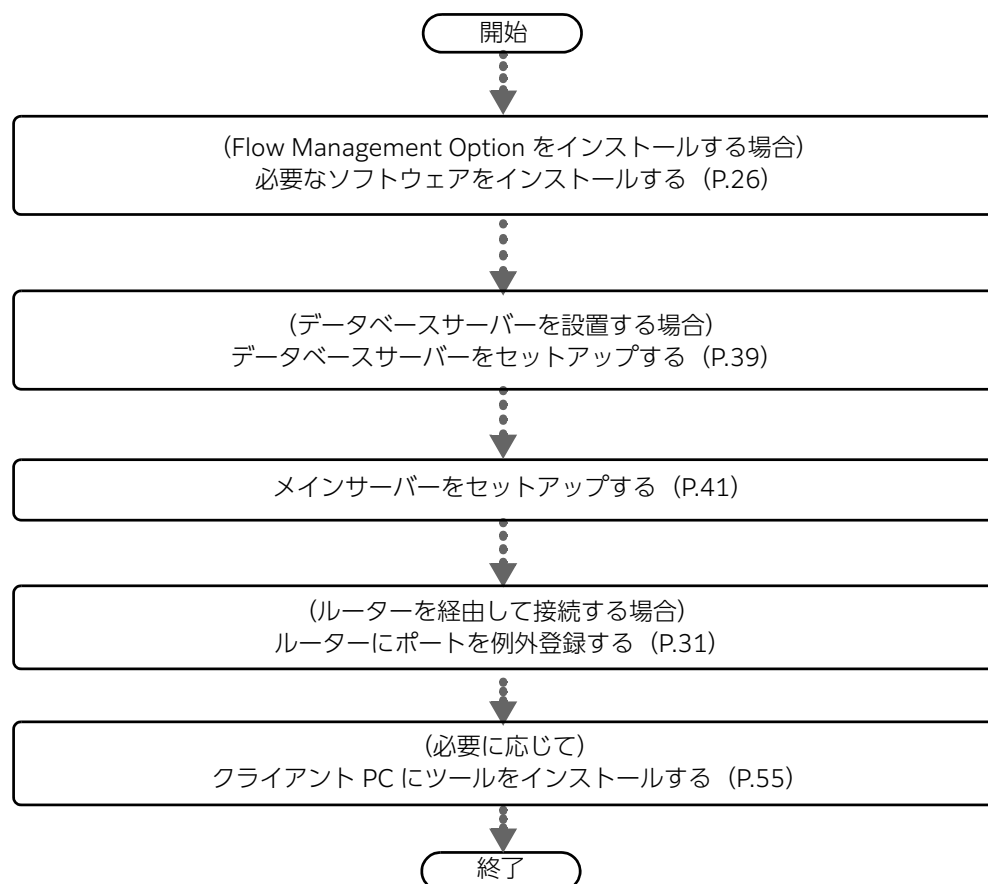


- ・ Flow Management Option、Paper Form Editor、Paper Form Management をインストールする場合は、インストールパスに「c:\¥Program Files¥」を指定しないでください。Flow Management Option、Paper Form Editor、Paper Form Management は WOW64 エミュレーションレイヤー・サブシステム上で動作するため、予期しない問題が起こる可能性があります。
- ・ メインサーバーと各分散サーバーの時刻の設定に 60 秒以上の差があると、各機能が正常に動作しなくなります。メインサーバーと各分散サーバーは NTP (Network Time Protocol) などを使って時刻を合わせてください。
- ・ 複数の分散サーバーを同時にセットアップしないでください。同時にセットアップすると分散サーバーが正しくセットアップされないことがあります。
- ・ 分離サーバー構成でセットアップする場合は、メインサーバーのセットアップ時に設定したメインサーバーの [ホスト名] または [IP アドレス] と、分離サーバーのセットアップ時に指定したメインサーバーの [ホスト名] または [IP アドレス] が一致している必要があります。
例えば、メインサーバーのセットアップ時に [ホスト名] を設定し、分離サーバーのセットアップ時に [IP アドレス] でメインサーバーを指定した場合は、正しく動作しません。
『機能ガイド』の「多重化構成のサーバーでホスト名または IP アドレスを変更する場合」を参照して、同じホスト名になるよう構成してください。



複数の分散サーバーを同時にセットアップした場合は、「インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき」(P.63) を参照してください。

Entry Edition の場合



Flow Management Option を ApeosWare Management Suite を 64 ビット版の Windows にインストールする

場合は、インストールパスに「c:\Program Files\」を指定しないでください。ApeosWare Management Suite は WOW64 エミュレーションレイヤー・サブシステム上で動作するため、予期しない問題が起こる可能性があります。

データベースサーバーをセットアップする

データベースサーバーを設置する場合は、次の手順で PC をセットアップします。

1. PC に SQL Server がインストールされていない場合は、インストールします。
SQL Server で必要な設定については、「SQL Server のインストール」(P.22) を参照してください。
2. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。
「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」(P.28) を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。

レポートサーバーをセットアップする

レポートサーバーを設置する場合は、次の手順で PC をセットアップします。

- (1) SQL Server、および SSRS (SQL Server Reporting Services) をインストールする
- (2) ApeosWare Management Suite をインストールする



- ・ レポートサーバーを設置する場合は、データベースサーバーもメインサーバーと分離する構成にする必要があります。
- ・ レポートサーバーをデータベースサーバーと同一の PC にセットアップすることを推奨します。
- ・ レポートサーバーは、SSL 環境では使用できません。

1. レポートサーバーに、SQL Server と SSRS (SQL Server Reporting Services) をインストールします。



- ・ レポートサーバーには、SQL Server と SSRS (SQL Server Reporting Services) を必ずインストールしてください。
- ・ SSRS のインストールは、Microsoft SQL Server 2019 インストーラ内の「機能の選択 (Feature Selection)」画面上部のリンクなどから、使用している SQL Server のバージョンにあった SSRS をダウンロードしてください。



SQL Server で必要な設定については、「SQL Server のインストール」(P.22) を参照してください。

2. ApeosWare Management Suite を、次の手順でインストールをします。
 - (1) DVD-ROM の Edition メディアを、DVD ドライブに挿入します。
 - (2) 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。



ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。

(3) 表示されたウィンドウの [Reports Server] をダブルクリックします。



(4) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

- データベースを選択する画面で、レポート機能が使用するデータベースを指定します。
ドロップダウンリストボックスから、「localhost¥ {インスタンス名}」を指定します。ここでは、必ずローカルのデータベースを指定してください。
認証方法に [SQL Server 認証] を選択した場合は、SQL Server への接続に使用するユーザー名とそのパスワードも指定します。

3. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。

「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」(P.28) を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。

4. レポートサーバーに管理者権限でログオンします。

5. Microsoft Edge を起動して、アドレスバーに次の URL を入力します。

`http://localhost/Reports_ {インスタンス名} /`

例：http://localhost/Reports_FXAW/

レポートマネージャーが起動します。

6. レポートマネージャーで、次の操作をします。

■ SQL Server 2012 の場合

- (1) [フォルダー設定] をクリックします。
- (2) [新しいロールの割り当て] をクリックします。
- (3) [グループ名またはユーザー名] に次のように入力します。
{Active Directory のドメイン名} ¥ {メインサーバー名} \$
例：DOMAIN¥Server\$
- (4) ブラウザー にチェックマークを付けます。
- (5) [OK] をクリックします。

■ SQL Server 2016 の場合

- (1) [フォルダーの管理] をクリックします。
- (2) [グループまたはユーザーの追加] をクリックします。

- (3) [グループまたはユーザー] に次のように入力します。
 {Active Directory のドメイン名} ¥ {メインサーバー名} \$
 例: Domain¥Server\$
- (4) ブラウザーにチェックマークを付けます。
- (5) [OK] をクリックします。

メインサーバーをセットアップする

メインサーバー用の PC をセットアップします。

1. 必要に応じて、PC に SQL Server 2019 をインストールします。
 SQL Server で必要な設定については、「SQL Server のインストール」(P.22) を参照してください。



次の場合は、この手順は必要ありません。

- ・ 分離データベースサーバーを設置している場合
- ・ インストーラーに含まれる SQL Server 2019 を使用する場合
- ・ すでに SQL Server がインストールされている場合

2. ApeosWare Management Suite を、次の手順でインストールします。

- (1) DVD-ROM の Edition メディアを、DVD ドライブに挿入します。
- (2) 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。



ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。

- (3) 表示されたウィンドウの [ApeosWare Management Suite] をダブルクリックします。



- (4) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

[シリアル番号の入力] 画面で、ApeosWare Management Suite のシリアル番号を入力します。シリアル番号は、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに同梱された「ライセンス証書」に記載されています。

体験版のシリアル番号を指定した場合は、体験版がインストールされます。

シリアル番号のリストファイルをインポートすることもできます。「シリアル番号のリストファイルについて」(P.18) を参照してください。



補足

- ・イメージログサーバーを分離サーバーとしてセットアップして ABBYY OCR を利用する場合は、Scan OCR Option は不要です。「イメージログサーバーをセットアップする」(P.48) の手順に従って ABBYY OCR ライセンスをイメージログサーバーに登録します。
 - ・以下の場合は Scan OCR Option ライセンスが必要です。Scan OCR Option ライセンスはメインサーバーで登録します。
 - ・ OCR サーバーを分離サーバーとして、セットアップする場合
 - ・ フローマネジメントサーバーを分離サーバーとしてセットアップして、OmniPage OCR を利用する場合
 - ・ イメージログサーバーを分離サーバーとしてセットアップして、OmniPage OCR を利用する場合
 - ・ OmniPage OCR を利用する分離サーバー 1 台につき、1 つの Scan OCR Option ライセンスが必要です。
- Enterprise Edition でコスト管理機能を使用する場合は、[セットアップタイプ] 画面で [Cost Recovery 機能を有効にする] にチェックマークを付けます。



補足

プリントアプリケーションサーバーを分離サーバーとしてセットアップする場合は、必ず [Cost Recovery 機能を有効にする] のチェックマークを外してください。有効にしても、コスト管理はできません。

- [IIS の Web サイトの設定] 画面が表示された場合は、Internet Information Service の Web サイトを設定します。
「ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合」(P.17) を実行した場合は、[IIS から既定の Web サイトを選択して使用する] を選択し、事前に作成した Web サイトを指定します。また、[バインド設定] の [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。
- [SQL Server 情報] 画面で、ApeosWare Management Suite が使用するデータベースとその接続方法を指定します。
 - インストーラーに含まれる SQL Server 2019 Express を自動でインストールする場合
[SQL Server 2019 Express Edition を新規インストールする] を選択します。
 - すでに SQL Server がインストールされている場合、または分離データベースサーバーを設置している場合
[既存の SQL Server を使用する] を選択し、[参照] をクリックして、使用するデータベースのインスタンスを選択します。
ローカルのデータベースの場合は「localhost¥ {インスタンス名}」、分離データベースの場合は「{データベースサーバーのホスト名} ¥ {インスタンス名}」を指定します。例：localhost¥FXAW、DBSVR¥FXAW
認証方法に [SQL Server 認証] を選択した場合は、SQL Server への接続に使用するユーザー名とそのパスワードも指定します。
- [Report Server 情報] 画面で、レポートサーバーの情報を指定します。
 - 分離レポートサーバーを設置する場合
[Report Server を別のサーバーにインストールします] を選択し、レポートサーバーの URL を次のように指定します。
http:// {レポートサーバーのホスト名または IP アドレス} /ReportServer_ {インスタンス名}
例：http://192.0.2.1/ReportServer_FXAW
 - メインサーバー内にレポート機能をインストールする場合
[Report Server を同じサーバーにインストールします] を選択します。
- インストール中にライセンス管理画面（ライセンス認証するツール）が起動した場合は、「インターネット経由でライセンスを認証する」(P.56) を参照してください。

3. ApeosWare Management Suite のインストールが終了したら、[機能別一覧] タブにある [Update Service] をダブルクリックします。

インストーラーが起動するので、画面の指示に従って Update Service をインストールします。

4. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。

「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」(P.28) を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。

プリントアプリケーションサーバーをセットアップする

プリントアプリケーションサーバーを設置する場合の、PC のセットアップ手順を説明します。



- ・ 同一システム上に、プリントアプリケーションサーバーとプリント入出力サーバーの混在はできません。
- ・ 複数の分散サーバーを同時にセットアップしないでください。同時にセットアップすると分散サーバーが正しくセットアップされないことがあります。



複数の分散サーバーを同時にセットアップした場合は、「インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき」(P.63) を参照してください。

1. 必要に応じて、PC に SQL Server 2019 をインストールします。

SQL Server に必要な設定については、「SQL Server のインストール」(P.22) を参照してください。



- 次の場合は、この手順は必要ありません。
- ・ 分離データベースサーバーを設置している場合
 - ・ インストーラーに含まれる SQL Server 2019 を使用する場合
 - ・ すでに SQL Server がインストールされている場合

2. ApeosWare Management Suite を、次の手順でインストールします。

(1) DVD-ROM の Edition メディアを、DVD ドライブに挿入します。

(2) 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。

(3) 表示されたウィンドウで、[Print Application Server] をダブルクリックします。

(4) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

- [シリアル番号の入力] 画面が表示された場合は、ApeosWare Management Suite のシリアル番号を入力します。シリアル番号は、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに同梱された「ライセンス証書」に記載されています。
体験版のシリアル番号を指定した場合は、体験版がインストールされます。
シリアル番号のリストファイルをインポートすることもできます。「シリアル番号のリストファイルについて」(P.18) を参照してください。
- [接続先メインサーバーの入力] 画面で、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
- [IIS の Web サイトの設定] 画面が表示された場合は、Internet Information Service の Web サイトを設定します。
「ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合」(P.17) を実行した場合は、[IIS から既定の Web サイトを選択して使用する] を選択し、事前に作成した Web サイトを指定します。また、[バインド設定] の [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。
- [SQL Server 情報] 画面で、プリント管理機能が使用するデータベースとその接続方法を指定します。
 - インストーラーに含まれる SQL Server 2019 Express を自動でインストールする場合
[SQL Server 2019 Express Edition を新規インストールする] を選択します。
 - すでに SQL Server がインストールされている場合
[既存の SQL Server を使用する] を選択し、[参照] をクリックして、使用するデータベースのインスタンスを選択します。
ローカルデータベースの場合は「localhost¥ {インスタンス名}」。
例：localhost¥FXAW

認証方法に [SQL Server 認証] を選択した場合は、SQL Server への接続に使用するユーザー名とそのパスワードも指定します。

- インストール中にライセンス管理画面（ライセンス認証するツール）が起動した場合は、「インターネット経由でライセンスを認証する」（P.56）を参照してください。

3. ApeosWare Management Suite のインストールが終了したら、[機能別一覧] タブにある [Update Service] をダブルクリックします。

インストーラーが起動するので、画面の指示に従って Update Service をインストールします。

4. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。

「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」（P.28）を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。

設定ファイルを更新する

プリントアプリケーションサーバー構成では、メインサーバーのダウン中に発行したジョブを、メインサーバーの復帰後にリストアップして印刷するために、設定ファイルである Web.config の更新が必要です。



補足

ApeosWare Management Suite のユーザーを追加または変更するときに、過去に使ったユーザー ID を使用しないでください。新しいユーザーでオンデマンドプリントのジョブリストを表示した場合に、前のユーザーで登録したプリントジョブがリストアップされることがあります。

設定ファイルの更新には、「ChangeJobListTarget.exe」ツールを使用します。このツールは「{インストールフォルダー}¥Utils¥ChangeJobListTarget」に格納されています。

設定ファイルは、ツールの末尾にオプションを指定して実行すると更新されます。

例：

ChangeJobListTarget.exe -s enable

ChangeJobListTarget.exe -s disable

「-s enable」を指定すると、設定ファイルのキー UseUserIDJobList を「true」にします。また「-s disable」を指定すると、「false」にします。



補足

- ・ UseUserIDJobList を更新するときは、ツールの実行後に IIS がリサイクルされるため、あらかじめ IIS を停止してから実行してください。IIS の停止方法については、「IIS の停止方法」（P.44）を参照してください。
- ・ UseUserIDJobList の更新は、メインサーバーとプリントアプリケーションサーバーのそれぞれで実行してください。

IIS の停止方法

1. [スタート] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択します。

2. [サービス] 画面で [World Wide Web Publishing Service] をダブルクリックします。

[World Wide Web Publishing Service のプロパティ] 画面が表示されます。

3. [停止] をクリックします。

World Wide Web Publishing Service が停止します。



補足

World Wide Web Publishing Service の停止には 2 分～ 3 分かかる場合があります。

設定ファイル

更新される設定ファイルは次のとおりです。

- メインサーバー
 - ・ {インストールフォルダー} ¥WebApp¥Admin¥Web.config
 - ・ {インストールフォルダー} ¥WebApp¥MFD¥Web.config
 - ・ {インストールフォルダー} ¥WebApp¥PopupUI¥Web.config
 - ・ {インストールフォルダー} ¥WebApp¥User¥Web.config
- プリントアプリケーションサーバー
 - ・ {インストールフォルダー} ¥WebApp¥MFD¥Web.config
 - ・ {インストールフォルダー} ¥WebApp¥PopupUI¥Web.config

プリント入出力サーバー、またはモバイルサーバーをセットアップする

プリント入出力サーバー、またはモバイルサーバーを設置する場合の、PC のセットアップ手順を説明します。



- ・ 同一システム上に、プリントアプリケーションサーバーとプリント入出力サーバーの混在はできません。
- ・ 複数の分散サーバーを同時にセットアップしないでください。同時にセットアップすると分散サーバーが正しくセットアップされないことがあります。



複数の分散サーバーを同時にセットアップした場合は、「インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき」(P.63) を参照してください。

1. ApeosWare Management Suite を、次の手順でインストールします。

- (1) DVD-ROM の Edition メディアを、DVD ドライブに挿入します。
- (2) 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。
- (3) 表示されたウィンドウで、セットアップするサーバーをダブルクリックします。
プリント入出力サーバーの場合
 - [Print Input/Output Server]
 モバイルサーバーの場合
 - [Remote Mobile Server]
- (4) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。
 - [接続先メインサーバーの入力] 画面で、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
 - [IIS の Web サイトの設定] 画面が表示された場合は、Internet Information Service の Web サイトを設定します。
「ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合」(P.17) を実行した場合は、[IIS から既定の Web サイトを選択して使用する] を選択し、事前に作成した Web サイトを指定します。また、[バインド設定] の [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。

2. ApeosWare Management Suite のインストールが終了したら、[機能別一覧] タブにある [Update Service] をダブルクリックします。

インストーラーが起動するので、画面の指示に従って Update Service をインストールします。

3. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。

「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」(P.28) を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。

OCR サーバーをセットアップする

OCR サーバーを設置する場合は、次の手順を実行します。

- (1) OCR サーバーに ApeosWare Management Suite をインストールする

(2) メインサーバーで OCR Config Utility を実行する



- ・ OCR サーバー 1 台につき、1 つの Scan OCR Option ライセンスが必要です。Scan OCR Option ライセンスは、メインサーバーで登録します。
- ・ 複数の分散サーバーを同時にセットアップしないでください。同時にセットアップすると分散サーバーが正しくセットアップされないことがあります。



複数の分散サーバーを同時にセットアップした場合は、「インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき」(P.63) を参照してください。

OCR サーバーに ApeosWare Management Suite をインストールする

1. ApeosWare Management Suite を、次の手順でインストールします。

- (1) DVD-ROM の Edition メディアを、DVD ドライブに挿入します。
- (2) 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。
ウィンドウが表示されない場合は、DVD-ROM のルート上の「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。
- (3) 表示されたウィンドウで、[Remote OCR Server] をダブルクリックします。
- (4) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

- ・ [接続先メインサーバーの入力] 画面で、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
- ・ [IIS の Web サイトの設定] 画面が表示された場合は、Internet Information Service の Web サイトを設定します。
「ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合」(P.17) を実行した場合は、[IIS から既定の Web サイトを選択して使用する] を選択し、事前に作成した Web サイトを指定します。また、[バインド設定] の [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。

2. ApeosWare Management Suite のインストールが終了したら、[機能別一覧] タブにある [Update Service] をダブルクリックします。

インストーラーが起動するので、画面の指示に従って Update Service をインストールします。

3. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。

「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」(P.28) を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。

メインサーバーで OCR Config Utility を実行する

1. メインサーバーにある、次の実行ファイルをダブルクリックします。

- ・ ファイルの場所：

{インストール先フォルダー} \Utils\OCRConfigUtility

{インストール先フォルダー} は、初期設定を変更していない場合は次になります。

[C:\Program Files\FUJIFILM\ApeosWare MS]

Flow Management Option、Paper Form Editor、Paper Form Management のインストール先フォルダーは、次になります。

[C:\Program Files (x86)\FUJIFILM\ApeosWare MS]

- ・ ファイル名

FujiFilm.FB.ApeosWare.OCRConfigUtility.exe

2. ホスト名 /IP アドレスのうち、メインサーバーに該当する項目を削除します。
OCR Config Utility にメインサーバーの項目が含まれている場合は、メインサーバーと OCR サーバーで並行して OCR 処理を行います。OCR サーバーだけで OCR 処理を行うようにするため、メインサーバーの項目を削除します。
3. [サーバーを追加] をクリックします。
4. OCR サーバーのホスト名または IP アドレスと、使用ポートを入力して、[追加] をクリックします。
5. 設置した OCR サーバーの台数だけ、手順 2、3 を繰り返します。

フローサーバーをセットアップする

フローサーバーを設置する場合は、次の手順で PC をセットアップします。



- ・ フローサーバーを設置する前に、別の PC にメインサーバーがセットアップされている必要があります。メインサーバーがセットアップされていない場合は、「メインサーバーをセットアップする」(P.41) を参照して、セットアップを実施してください。
- ・ 複数の分散サーバーを同時にセットアップしないでください。同時にセットアップすると分散サーバーが正しくセットアップされないことがあります。



複数の分散サーバーを同時にセットアップした場合は、「インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき」(P.63) を参照してください。

1. 必要なソフトウェア (DocuWorks、ネットワークスキャナーユーティリティ 2) やファイルを、PC にインストールまたはコピーします。



「Flow Management Option を利用する場合に、追加に必要なソフトウェア / ファイルについて」(P.17)

2. [機能別一覧] タブにある次のプログラムをインストールします。
IIS (Internet Information Services) がインストールされていない場合は、.NET Framework をインストールするときに自動でインストールされます。
 - Microsoft® .NET Framework 4.6.2
 - Microsoft® SQL Server® 2019



Microsoft® .NET Framework 3.5 がインストールされていない場合、サーバーマネージャーの「役割と機能の追加ウィザード」から有効化 (追加) にしてください。

3. Flow Management を次の手順でインストールします。
 - (1) [機能別一覧] タブにある [Flow Management] をダブルクリックします。
 - (2) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。
 - [シリアル番号の入力] 画面で、「ライセンス証書」に記載されたシリアル番号を入力します。
体験版としてインストールする場合は、何も入力しないまま [次へ] をクリックします。
 - [セットアップタイプの指定] 画面で、[FM 分離構成インストール] を選択します。
 - [データベースサーバーの指定] 画面で、Flow Management が使用するデータベースとその接続方法を指定します。
[データベースサーバー名] の [参照] をクリックして、使用するデータベースのインスタンスを選択します。
ローカルのデータベースの場合は「localhost¥ {インスタンス名}」、分離データベースの場合は「{データベースサーバーのホスト名} ¥ {インスタンス名}」を指定します。例: localhost¥FXAW、

DBSVR\FXAW

認証方法に【SQL Server 認証】を選択した場合は、SQL Server への接続に使用するユーザー名とそのパスワードも指定します。



Flow Management で使用するデータベースには、必ず ApeosWare Management Suite で使用するデータベースと同じものを指定してください。

- ・【共有システム ID の指定】が表示された場合は、次の操作をします。
ほかの PC の Flow Management で作成したフローを使用しない場合
(1) 【共有システム ID を指定しない】を選択します。
- ・ほかの PC の Flow Management で作成したフローを使用する場合
(1) 【共有システム ID を指定する】を選択します。
(2) 【参照】をクリックして、共有システム ID ファイルを選択します。
初期状態の名前は「AWFMSYSTEMIDDownload_ {年月日時分秒} .ini」です。
- ・インストール中にライセンス管理画面（ライセンス認証するツール）が起動した場合は、「インターネット経由でライセンスを認証する」（P.56）を参照してください。



・次のオプションは、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに付属した DVD-ROM で該当する言語を選択した場合にインストールできます。

- ・ OCR for DocuWorks Multi Language Option（日本語と英語以外の言語に対応）
- ・ OCR for DocuWorks English License

・次のオプションは、Windows のシステムロケールで該当する言語を選択した場合にインストールできます。

- ・ Attribute Processing Option
- ・ Database Query Option

4. Flow Management のインストールが終了したら、【機能別一覧】タブにある Update Service をダブルクリックします。

インストーラーが起動するので、画面の指示に従って Update Service をインストールします。

5. 必要に応じて、【機能別一覧】タブにある、そのほかのソフトウェアをインストールします。



Paper Form Management で使用するデータベースには、必ず ApeosWare Management Suite で使用するデータベースと同じものを指定してください。

6. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。

「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」（P.28）を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。



このあと、フローを作成してから DocuWorks またはネットワークスキャナーユーティリティ 2 をインストールした場合は、インストールしたあと、PC または Flow Management サービスを再起動してください。再起動しないと、フローが正しく動作しません。

イメージログサーバーをセットアップする

イメージログサーバーを設置する場合は、次の手順で PC をセットアップします。



- ・イメージログサーバーを設置する前に、別の PC にメインサーバーがセットアップされている必要があります。
メインサーバーがセットアップされていない場合は、「メインサーバーをセットアップする」（P.41）を参照して、セットアップを実施してください。

- ・イメージログコアサーバーとイメージログ受信サーバーは、同じサーバーにも、別々のサーバーにもセットアップできます。メインサーバーをイメージログコアサーバーとして利用し、イメージログ受信サーバーだけを別にセットアップもできます。イメージログコアサーバー、イメージログ受信サーバーを設置する PC で、次の手順に従いセットアップします。
- ・イメージログ受信サーバーを分散構成で設置する場合、コアサーバーを先にインストールしてください。
- ・インストール先フォルダー、ユーザーデータ保存先フォルダー、ワークスプールフォルダーには、内蔵ハードディスクを指定してください。

1. [機能別一覧] タブにある次のプログラムをインストールします。

IIS (Internet Information Services) がインストールされていない場合は、.NET Framework をインストールするときに自動でインストールされます。

- Microsoft® .NET Framework 4.6.2



Microsoft® .NET Framework 3.5 がインストールされていない場合、サーバーマネージャーの「役割と機能の追加ウィザード」から有効化 (追加) にしてください。

2. Image Log Management を次の手順でインストールします。

(1) [機能別一覧] タブにある [Image Log Management] をダブルクリックします。

(2) 以降は、画面の指示と次の説明に従ってインストールしてください。

- サーバー構成に応じて、[シリアル番号の入力] 画面で、「ライセンス証書」に記載された次のシリアル番号を入力します。
体験版としてインストールする場合は、何も入力しないまま [次へ] をクリックします。
- ・ イメージログコアサーバーライセンス
ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option Registering Server License (MSDS)
- ・ イメージログ受信サーバーライセンス
ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option Receiving Server License (MSDT)
- ・ ABBYY OCR ライセンス
ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR License (MSDU)、または ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR CJKE Thai License (MSDV)



- ・ イメージログコアサーバーライセンスのみを指定すると、イメージログコアサーバーがインストールされます。
- ・ イメージログ受信サーバーライセンスのみを指定すると、イメージログ受信サーバーがインストールされます。
- ・ イメージログコアサーバーライセンスとイメージログ受信サーバーライセンスの両方を指定すると、イメージログサーバーがインストールされます。
- ・ イメージログ受信サーバーで OCR 機能を使用するには、ABBYY OCR ライセンスまたは Scan OCR Option ライセンスが必要です。
 - ・ ABBYY OCR を利用する場合は、イメージログ受信サーバーに ABBYY OCR ライセンスを登録します。
 - ・ OmniPage OCR を利用する場合は、メインサーバーに Scan OCR Option ライセンスを登録します。
 - ・ OmniPage OCR を利用する分離サーバー 1 台につき、1 つの Scan OCR Option ライセンスが必要です。
- イメージログコアサーバーをメインサーバーに設置する場合は、[メインサーバーにセットアップ] を選択します。
- イメージログコアサーバーやイメージログ受信サーバーをメインサーバー以外に設置する場合は、[メインサーバーと別のサーバーにセットアップ] を選択します。
- 分散構成の場合、[データベースサーバーの指定] 画面で、Image Log Management が使用するデータベースとその接続方法を指定します。
メインサーバーにデータベースが設置されていない場合は、[データベースサーバー名] の [参照] をクリックして、使用するデータベースのインスタンスを選択します。
分離データベースの場合は「{データベースサーバーのホスト名} ¥ {インスタンス名}」を指定します。
例：DBSVR¥FXAW
認証方法に [SQL Server 認証] を選択した場合は、SQL Server への接続に使用するユーザー名とそのパスワードも指定します。
- [IIS の Web サイトの設定] 画面が表示された場合は、Internet Information Service の Web サイトを設

定します。

「ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 化する場合」(P.17) を実行したときは、[IIS から既定の Web サイトを選択して使用する] を選択し、事前に作成した Web サイトを指定します。また、[バインド設定] の [SSL 構成にする] にチェックマークを付けます。



補足

Image Log Management で使用するデータベースには、必ず ApeosWare Management Suite で使用するデータベースと同じものを指定してください。

3. ApeosWare Management Suite のインストールが終了したら、[機能別一覧] タブにある [Update Service] をダブルクリックします。

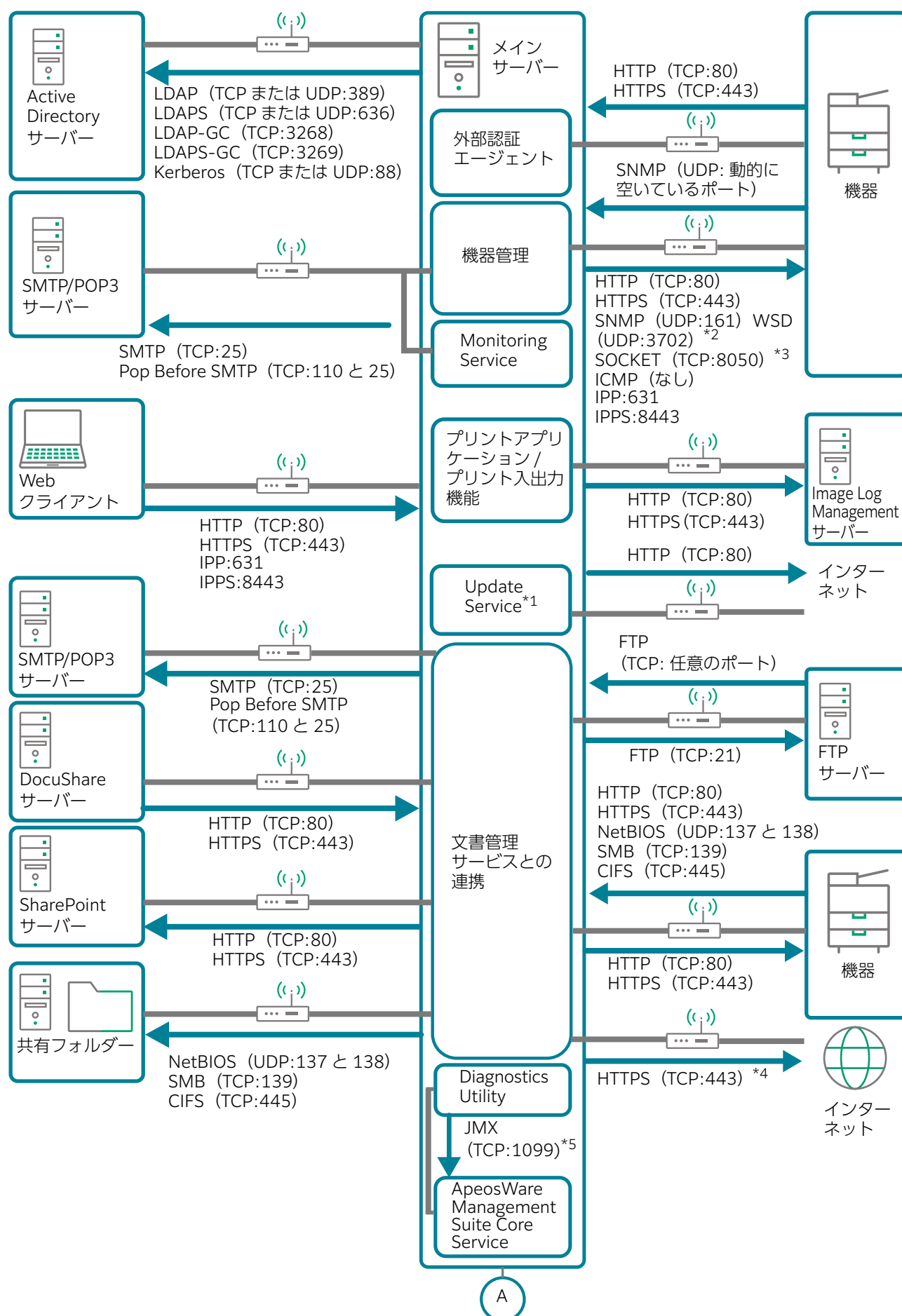
インストーラーが起動するので、画面の指示に従って Update Service をインストールします。

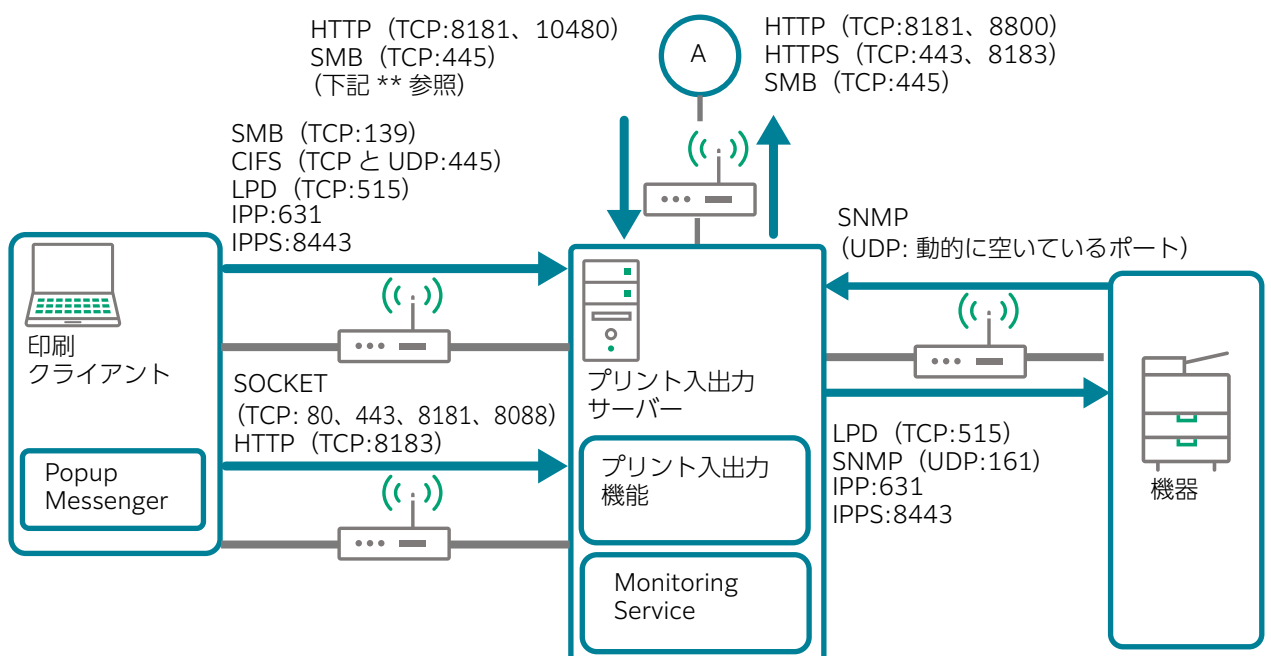
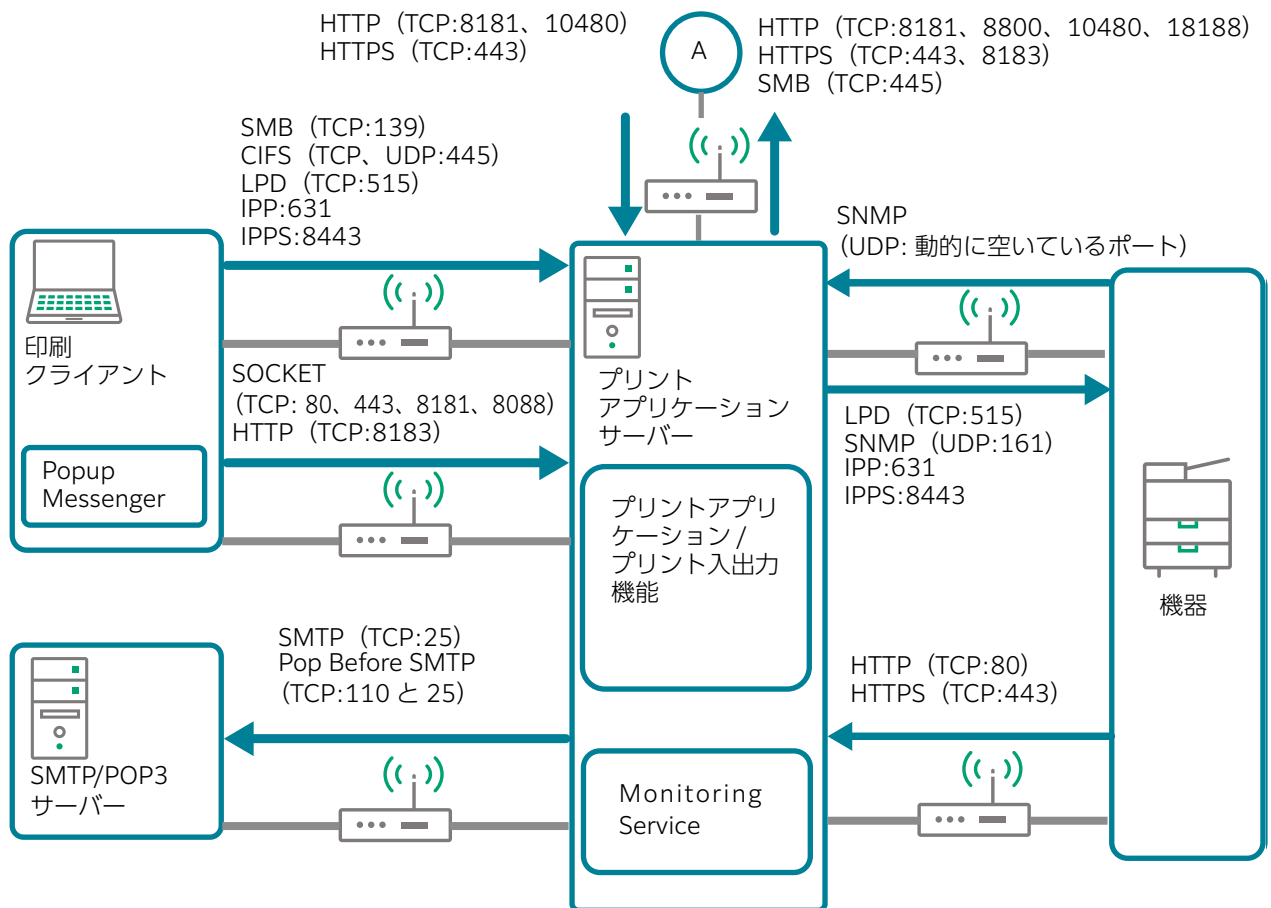
4. PC にファイアウォールが設定されている場合は、例外登録をします。

「ファイアウォールの受信の規則にプログラムまたはポートを登録する」(P.28) を参照して、対象のプログラムやポートの例外を設定してください。

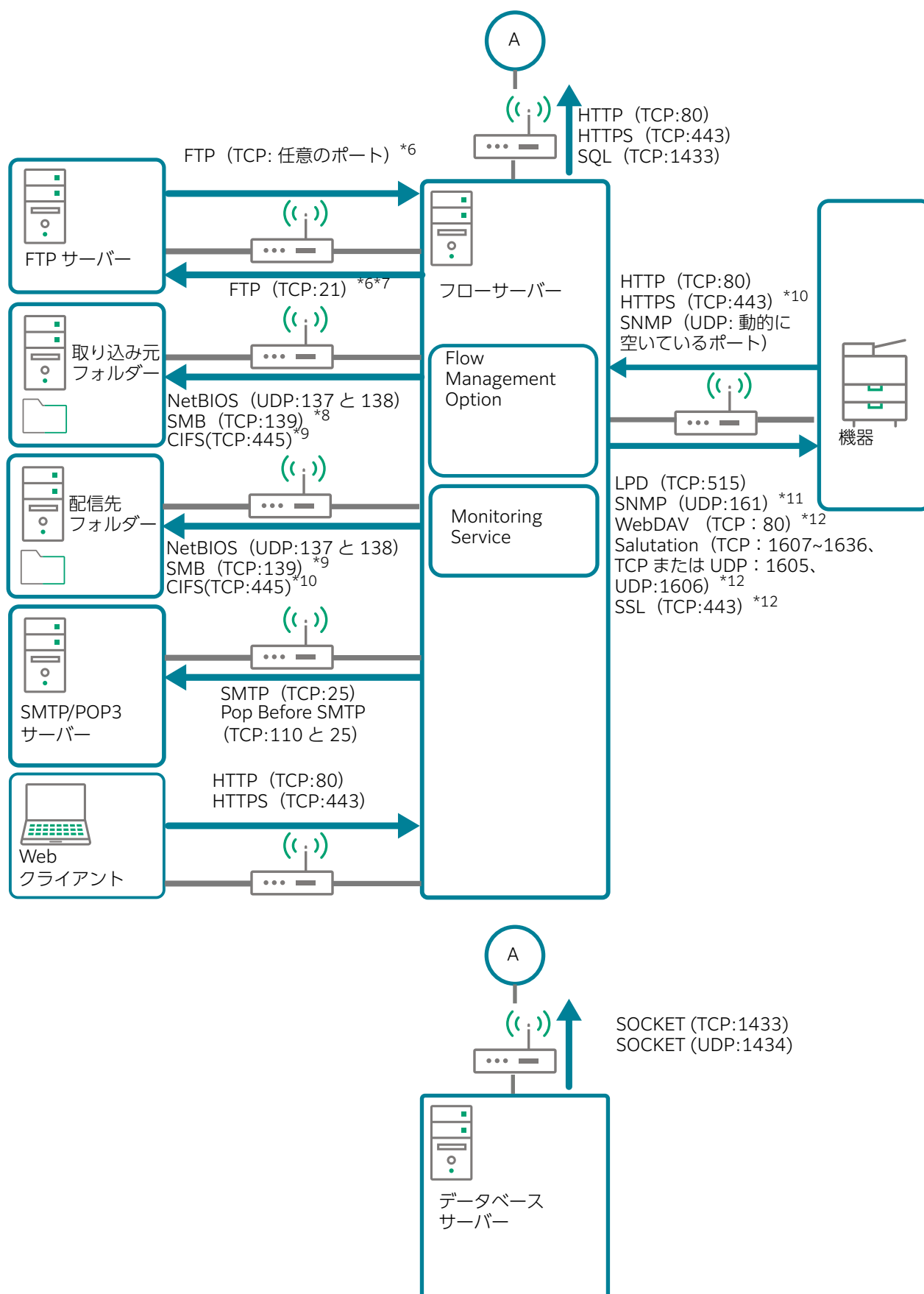
ルーターにポートを例外登録する

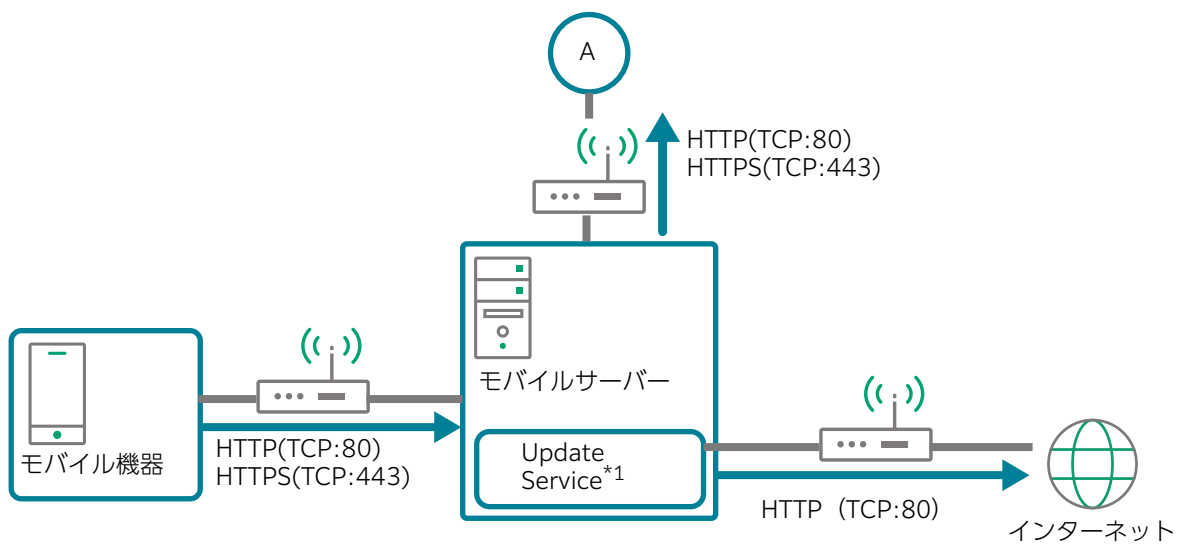
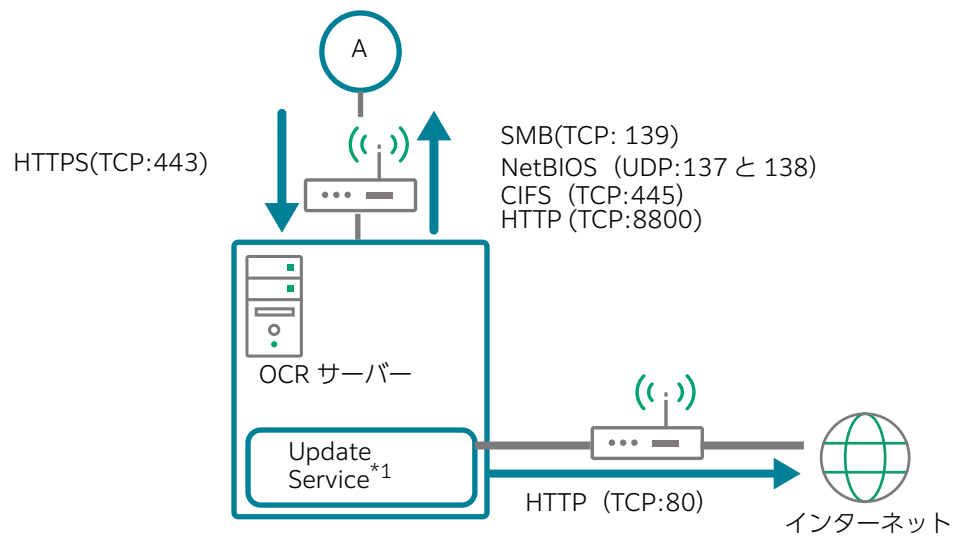
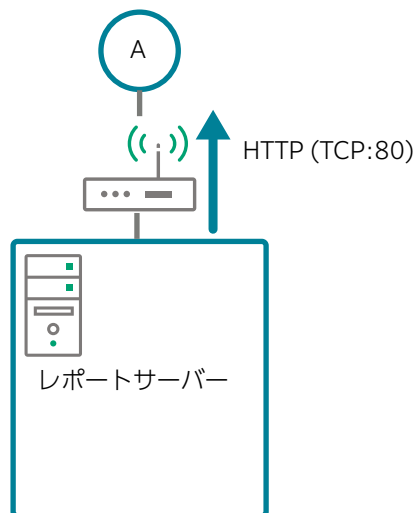
ApeosWare Management Suite のサーバーからルーターを経由して機器などと接続する場合に、許可するプロトコルとポート番号を説明します。外部のサーバーや機器でポート番号を変更している場合は、変更後の内容に合わせてください。

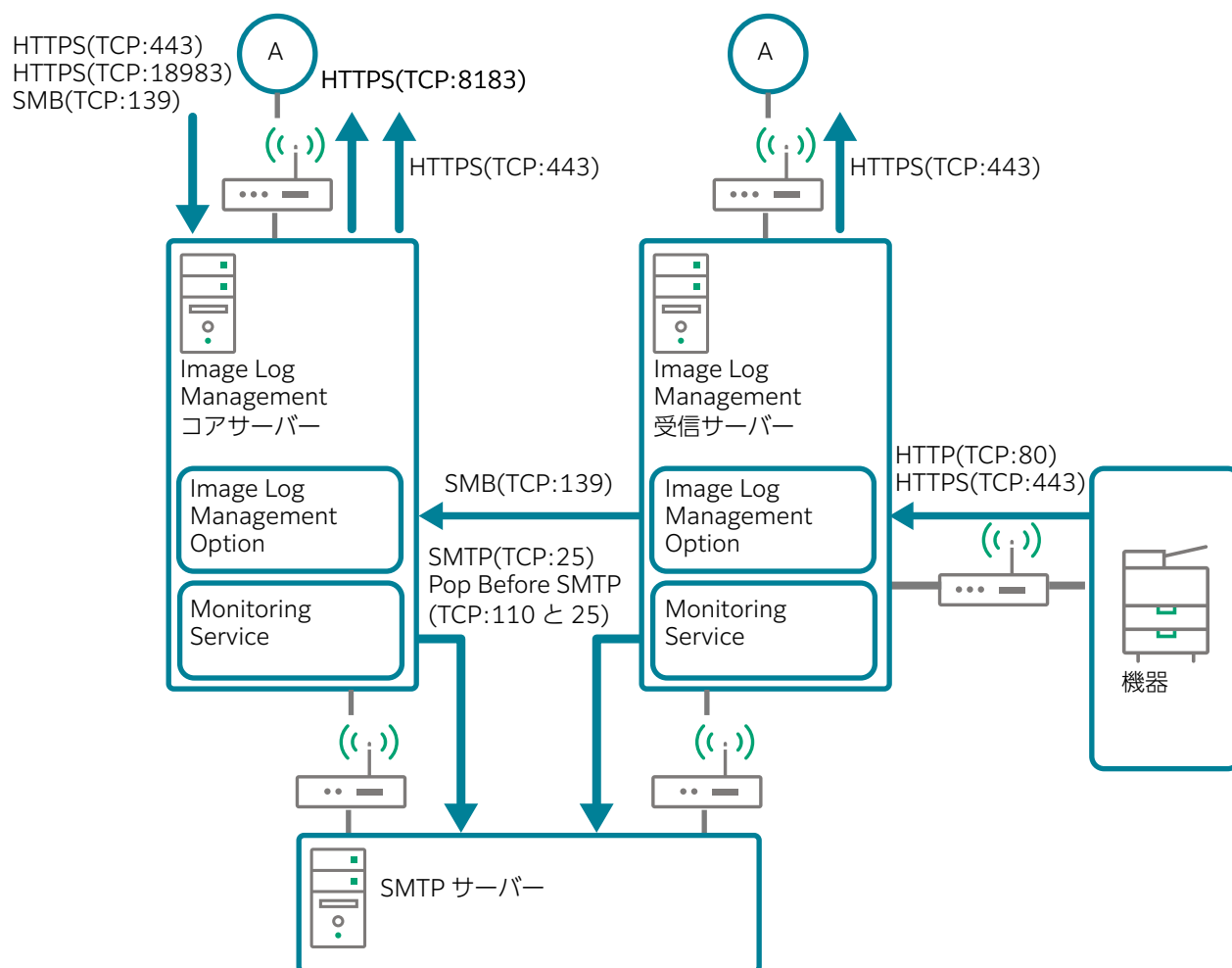




**Windows のファイアウォールの [受信の規則] で、次の 2 つの接続を許可するように設定します。
 Windows Management Instrumentation (WMI 受信)
 Windows Management Instrumentation (DCOM 受信)







- *1 ほかのサーバーやクライアントにインストールしている場合も、同様です。
- *2 WSD で機器検索する場合。WSD は、Web Services on Devices の略称です。
- *3 カスタム認証するときに XCP プラグインに設定を送信する場合
- *4 Working Folder、Salesforce、または Google ドライブを利用する場合です。
- *5 Diagnostics Utility で、ApeosWare Management Suite の情報を取得するときに利用します。
- *6 ApeosWare Management Suite サーバー内で利用するため、ルーターにポートの例外登録を行う必要はありません。
[フォルダー保存] 機能で、文書を FTP サーバー上のフォルダーに保存する場合に必要です。
- *7 21 番以外のポートも設定できます。
- *8 次のどれかに該当する場合に設定します。
 - ・ [フォルダー保存] 機能で、文書を共有フォルダーに保存する場合
 - ・ [文書属性の対応表出力] 機能で、文書属性の CSV ファイルを共有フォルダーに出力する場合
 - ・ [フォーム解析] 機能を使用する場合
 - ・ [フォーム解析結果出力] 機能を使用する場合
- *9 [フォルダー] 機能で、共有フォルダーから文書を取り込む場合に必要です。
- *10 [外部アクセス連携] 機能でスキャン文書を取り込む場合に必要です。
- *11 [プリンター出力] 機能で、文書をプリントまたはファクスする場合に必要です。
- *12 [ボックス] 機能で、ボックスから文書を取り込む場合に必要です。機器との接続方法によって、WebDAV または Salutation のどちらかを設定します。どちらを設定するかは、機種によって異なります。WebDAV を使用し、機器との通信を SSL で暗号化する場合、[SSL (TCP:443)] の設定も必要です。

クライアント PC にツールをインストールする

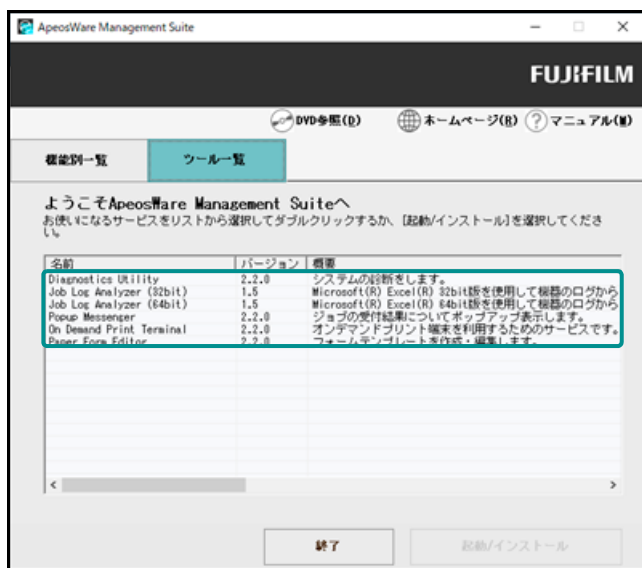
必要に応じて、クライアント PC に各種ツールをインストールします。



参照

Popup Messenger のインストールについては、『機能ガイド』の「Popup Messenger をインストールする」を参照してください。

1. DVD-ROM (Edition メディア) を DVD ドライブに挿入します。
2. 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。
3. [ツール一覧] タブをクリックします。
Update Service をインストールする場合は、[機能別一覧] タブをクリックします。
4. 必要なツールをダブルクリックします。



以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

ライセンス認証

すべてのソフトウェアとオプションは、インストールしただけではライセンスが有効になりません。そのまま使用し続けると、インストールしてから 30 日後に使用できなくなります。

ソフトウェアを使用し続けるためには、ライセンスを有効にする必要があります。



補足

SQL Server Standard は、ライセンス認証・認証解除の必要はありません。

インターネット経由でライセンスを認証する

PC がインターネットに接続されていて、ライセンス認証サーバーと https プロトコル (SSL) で通信できる場合は、インターネット経由でライセンス認証できます。

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [ライセンス認証] の順に選択します。
ライセンス管理画面が起動します。
2. [ライセンス登録] をクリックします。
3. シリアル番号を入力して、[次へ] をクリックします。
■ シリアル番号を手動で入力する場合

- (1) [シリアル番号 (テキスト入力)] を選択します。
 - (2) シリアル番号を入力します。
 - (3) [追加] をクリックします。
- 入力したシリアル番号が、一覧に追加されます。

■ シリアル番号をファイルから入力する場合

シリアル番号は、テキストファイルに保存したうえでライセンス管理画面に読み込むことができます。複数のシリアル番号をファイルに記載するときは、次のように 4 桁ごとにハイフン (-) で区切り、番号ごとに改行します。

1111-2222-3333-4444-5555-6666

2222-3333-4444-5555-6666-7777

- (1) [シリアル番号 (ファイルインポート)] を選択します。
- (2) [参照] をクリックしてファイルを選択します。

4. [インターネットを使ってライセンス認証を行う (推奨)] を選択し、[次へ] をクリックします。

5. 「富士フィルム BI ダイレクト」でユーザー登録をした [メールアドレス] および [パスワード] を入力し、[次へ] をクリックします。

ライセンス認証処理が実行されます。



[本商品に関連する情報のメール配信を希望する。] にチェックマークを付けると、メールで情報配信を受け取ることができます。

6. ライセンス認証処理が完了したら、[完了] をクリックします。

7. ライセンスの状態が [認証済] であることを確認して、[終了] をクリックします。

ファイルを使用してライセンスを認証する

ライセンス認証情報ファイルを作成する

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [ライセンス認証] の順に選択します。
- ライセンス管理画面が起動します。
2. [ライセンス登録] をクリックします。
- シリアル番号を入力するダイアログボックスが表示されます。
3. シリアル番号を入力し、[追加] をクリックします。
- 入力したシリアル番号が表示されます。
4. [ファイルを使ってライセンス認証を行う] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 「富士フィルム BI ダイレクト」のアカウント情報を入力する画面が表示されます。
5. 「富士フィルム BI ダイレクト」でユーザー登録をした [メールアドレス] および [パスワード] を入力し、[次へ] をクリックします。
- ライセンス認証情報ファイルの出力先を指定する画面が表示されます。
6. [参照] をクリックし、ライセンス認証情報ファイルの出力先とファイル名を指定し、[次へ] をクリックします。
- ライセンス認証情報ファイルが指定した出力先、およびファイル名で出力されます。
- 完了画面が表示されます。



ファイル名は「activationinfor.dat」で設定されます。

7. [完了] をクリックします。
8. [終了] をクリックします。
確認画面が表示されます。
9. [はい] をクリックします。
ライセンス管理画面が終了します。
10. USB メモリなどを利用して、出力したライセンス認証情報ファイルを、インターネットに接続できる PC にコンピューターにコピーします。

ライセンス認証情報ファイルをアップロードする

1. インターネットに接続できる PC で、Web ブラウザーを起動します。
2. Web ブラウザーの [アドレス] に、「富士フィルム BI ダイレクト」のファイルアップロードのページの URL を入力します。
https://direct-fb.fujifilm.com/ap1/license/bulk_activation/upload?proc=activation
「富士フィルム BI ダイレクト」のログイン画面が表示されます。
3. [ユーザー ID (メールアドレス)] と [パスワード] を入力し、[ログイン] をクリックします。ファイルアップロードのページが表示されます。
4. [認証] タブが選択されていることを確認し、[参照] をクリックします。
5. 出力したライセンス認証情報ファイルを選択し、[開く] をクリックします。



ライセンス認証情報ファイルを直接ドラッグ&ドロップしてアップロードすることもできます。

6. ファイル欄に選択したファイルが表示されていることを確認し、[送信] をクリックします。
[ファイルの処理を受け付けました。] というメッセージが表示されます。

ライセンスファイルをダウンロードする

ライセンス認証処理の完了を知らせるメールを受信したら、「富士フィルム BI ダイレクト」からライセンスファイルをダウンロードします。

1. 「富士フィルム BI ダイレクト」から送信された、ライセンス認証処理の完了を知らせるメールを受信します。
2. メールに記載されている [処理結果一覧] 画面の URL をクリックし、Web ブラウザーで富士フィルム BI ダイレクトの [処理結果一覧] 画面を表示します。
3. メールに記載されている受付番号の [結果] 欄が「OK」であることを確認し、[ダウンロード] をクリックします。
ライセンスファイルがダウンロードされます。
4. USB メモリなどを利用して、出力したライセンス認証情報ファイルを、ApeosWare Management Suite をインストールした PC にコンピューターにコピーします。

ライセンスファイルを使用してライセンスを認証する

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [ライセンス認証] の順に選択します。
ライセンス管理画面が起動します。
2. [高度な機能] をクリックします。
機能を選択する画面が表示されます。
3. [ライセンスファイルインポート] を選択し、[次へ] をクリックします。
ライセンスファイルを指定する画面が表示されます。
4. 次のように操作します。
 - (1) [参照] をクリックし、「ライセンスファイルをダウンロードする」(P.215) でダウンロードしたライセンスファイルを指定します。
 - (2) [次へ] をクリックします。
ライセンス認証が開始します。処理が終了すると、ライセンス認証の完了画面が表示されます。
5. [完了] をクリックします。
6. [終了] をクリックします。
確認画面が表示されます。
7. [はい] をクリックします。
ライセンス管理画面が終了します。

ソフトウェアのシリアル番号を削除する

1 つのソフトウェアに複数のシリアル番号を持っていて、PC に誤ったシリアル番号でインストールした場合、そのシリアル番号を削除できます。



ライセンス認証済みの場合は、解除しないと削除できません。「アンインストールするソフトウェアのライセンス認証を解除する」(P.66) を参照して、先にライセンス認証を解除してください。

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [ライセンス認証] の順に選択します。
ライセンス管理画面が起動します。
2. [高度な機能] をクリックします。
3. [シリアル番号の削除] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. シリアル番号を削除するソフトウェアまたはオプションを選択します。すべて削除する場合は、[全選択 / 全解除] をクリックします。
5. [次へ] をクリックします。
6. 確認画面が表示されたら、確認して [OK] をクリックします。
シリアル番号が削除されます。
7. [終了] をクリックします。

シリアル番号を入力する

ApeosWare Management Suite をインストールしたあとにオプションを追加する場合や、別のシリアル番号でライセンス認証をする場合は、次の手順でシリアル番号を入力します。

誤ってシリアル番号を入力した場合は、前項の「ソフトウェアのシリアル番号を削除する」(P.59) の手順でシリアル番号を削除してから、以下の操作をしてください。

シリアル番号の入力方法

はじめてライセンス認証をする場合

はじめてオプションのライセンス認証をする場合は、ApeosWare Management Suite の変更インストーラーを起動してシリアル番号を入力します。操作方法は、「変更インストーラーでシリアル番号を入力する」(P.60) を参照してください。

次のオプションは、はじめてライセンス認証する場合でも、ライセンス管理画面 を起動してシリアル番号を入力します。「ライセンス管理画面でシリアル番号を入力する」(P.61) を参照してください。

Scan & Connect for OneDrive Device License

OCR for DocuWorks Japanese Option

ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR License

ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR CJKE Thai License

2 回目以降にライセンス認証をする場合

すでにライセンスが認証済みのオプションに対して、追加でライセンス認証をする場合は、オプションによって操作方法が異なります。

次のオプションを追加する場合は、ライセンス管理画面を起動してシリアル番号を入力します。「ライセンス管理画面でシリアル番号を入力する」(P.61) を参照してください。

- Device License
- Scan OCR Option(OmniPage OCR)
- Scan & Connect for DocuShare Device License
- Scan & Connect for SharePoint Device License
- Scan & Connect for Salesforce Device License
- Scan & Connect for SharePoint Online Device License
- On Demand Print Terminal License
- Additional OS Parser Option
- Mobile User License

上記以外のオプションを追加する場合は、2 回目以降も変更インストーラーを使用してください。

たとえば、Device License を 1 つも認証していない場合に 100Device License を認証するときは、変更インストーラーを使用します。そのあと、500Device License を追加するときは、ライセンス管理画面を使用します。



ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR License と ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR CJKE Thai License のシリアル番号は、イメージログ受信サーバー上で入力します。

変更インストーラーでシリアル番号を入力する

1. Windows の「プログラムと機能」ウィンドウで、次の操作をします。

- (1) [ApeosWare Management Suite] をクリックします。
- (2) [変更] をクリックします。

2. [変更] をクリックします。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

3. シリアル番号を入力します。

シリアル番号は、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに同梱された「ライセンス証書」に記載されています。



シリアル番号のリストファイルをインポートすることもできます。「シリアル番号のリストファイルについて」(P.18) を参照してください。

4. [完了] をクリックします。

ライセンス管理画面が起動してライセンス認証を行います。

以降は、画面の指示に従って操作してください。



シリアル番号の入力画面が表示された場合は、手順 3 で入力したシリアル番号を入力し、[次へ] をクリックしてください。

ライセンス管理画面でシリアル番号を入力する

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM ApeosWare Management Suite] > [ライセンス認証] の順に選択します。

ライセンス管理画面が起動します。

2. [シリアル番号の入力] を選択します。

3. [次へ] をクリックします。

4. シリアル番号を入力します。

シリアル番号は、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに同梱された「ライセンス証書」に記載されています。



シリアル番号のリストファイルをインポートすることもできます。「シリアル番号のリストファイルについて」(P.18) を参照してください。

5. [追加] をクリックします。

6. [次へ] をクリックします。

7. シリアル番号の入力完了メッセージが表示されるので、[次へ] をクリックします。

以降は、「インターネット経由でライセンスを認証する」(P.56) または「ファイルを使用してライセンスを認証する」(P.57) を参照してください。

富士フィルムビジネスイノベーション ライセンス認証サポートデスク

ライセンス認証に関する操作手順の問い合わせについては、次の「富士フィルムビジネスイノベーション ライセンス認証サポートデスク」で対応します。

- 電話番号 : 045-224-8411
- メールアドレス : license-activation@ml-fb.fujifilm.com
- 受付時間 : 9 時～ 12 時、13 時～ 17 時 30 分 (土・日・祝日および弊社指定休業日をのぞく)

ライセンス認証サポートデスクでは、製品のインストールや操作方法、または製品に関するお問い合わせなどはお受けできません。

なお、製品のサポートを必要とされるお客様は、別途ソフトウェアサポート契約（有償）を締結いただく必要があります。詳細については、本製品をお買い上げになった、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社または販売会社の担当営業までお問い合わせください。

セットアップ後にすること

セットアップが完了後にすることを説明します。

ApeosWare Management Suite にログインする

Web ブラウザーから ApeosWare Management Suite にログインできることを確認します。

ログイン方法は、『機能ガイド』の「ApeosWare Management Suite へのログイン」を参照してください。

シングルサインオン機能の設定

インストール後の設定では、シングルサインオン機能は無効となっています。シングルサインオン機能を使用する場合は、次の手順で有効にしてください。

シングルサインオン機能を有効にすると、クライアント PC にログインしているユーザーと ApeosWare Management Suite に登録しているユーザーが一致する場合に、ログイン画面が表示されずに管理者画面やユーザー画面にアクセスできます。



参照

シングルサインオンとは → 『導入・運用ガイド』の「シングルサインオン」

1. [サーバーマネージャー] または [Windows の機能の有効化または無効化] から、IIS のセキュリティの [Windows 認証] を追加します。

2. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーの左ペインのサイト一覧から {使用している Web サイトの名前} > [Login] を選択します。



{使用している Web サイトの名前} は、インストール時の [IIS の Web サイトの設定] 画面で [新しい Web サイトを作成する。] を選択した場合は [ApeosWare Management Suite] になります。既存の Web サイトを選択した場合は、その Web サイトの名前になります。

3. [機能ビュー] の [認証] をダブルクリックします。
4. [Windows 認証] を有効、[匿名認証] を無効に設定します。

インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき

複数の分散プリントサーバーを同時にインストールすると、正しくセットアップされない場合があります。正しくセットアップされない場合は、プリントサーバーを再インストールします。

1. プリントサーバー一覧画面に表示されていないプリントサーバーの、ネットワークケーブルを取り外します。



ネットワークケーブルを取り外すことによって、メインサーバーと通信できない状態にします。

2. プリントサーバーをアンインストールします。



「データ保存先のファイルを次回利用のために残しますか？」のダイアログでは、[いいえ] オプションを選択してください。

3. プリントサーバーにネットワークケーブルを接続し、メインサーバーと通信できる状態にします。
4. プリントサーバーを再インストールします。
5. プリントサーバーのインストール完了後、メインサーバーを再起動します。

2 修復、変更、およびアンインストール

修復インストール

ファイルが破損した場合などは、修復インストールでファイルを修復できることがあります。

修復インストールをしても、設定した機能は変更されません。



修復インストールを実施すると、バージョンはインストール時のバージョンに戻ってしまい、更新や修正パッチプログラムは削除されます。インストール後に更新や修正パッチプログラムを適用した場合は、Update Service を使用して、再度、更新や修正パッチプログラムを適用してください。

1. Windows の [プログラムと機能] ウィンドウで、次の操作をします。

- (1) [ApeosWare Management Suite] をクリックします。
- (2) [変更] をクリックします。

2. [修復] をクリックします。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

変更インストール（オプションの追加）

オプションを追加する場合は、License Activator から認証操作を実施してください。License Activator がないオプションについては、変更インストールで追加します。変更インストールでオプションを追加する場合は、オプションのシリアル番号を準備してから始めてください。



変更インストールを実施すると、バージョン情報がインストールしたときと同じ状態になります。Update Service を使用してアップデートしていた場合は、必ず Update Service を使用して再度更新してください。更新前のバージョンで使用できるオプションは、更新前に追加してください。更新後にオプションを追加すると、再度更新が必要になります。

1. Windows の [プログラムと機能] ウィンドウで、次の操作をします。

- (1) [ApeosWare Management Suite] をクリックします。
- (2) [変更] をクリックします。

2. [変更] をクリックします。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

3. シリアル番号を入力します。

シリアル番号は、ApeosWare Management Suite の製品パッケージに同梱された「ライセンス証書」に記載されています。

4. [完了] をクリックします。

ライセンス管理画面が起動してライセンス認証を行います。

以降は、画面の指示に従って操作してください。



- ・ シリアル番号の入力画面が表示された場合は、手順 3 で入力したシリアル番号を入力し、[次へ] をクリックしてください。
- ・ ライセンス認証に関する操作は、「セットアップ後にすること」(P.62) を参照してください。

アンインストール

概要

・ オールインワン構成の場合

下記の「アンインストールの流れ」の手順を実行します。Flow Management および Image Log Management がインストールされている場合は、Flow Management および Image Log Management のアンインストールを先に行います。

Flow Management に機能を追加している場合は、Flow Management より先にその機能をアンインストールします。

・ 分散構成の場合

設置しているサーバーに応じて、次の順番でそれぞれ下記の「アンインストールの流れ」の手順を実行します。

- (1) レポートサーバー、データベースサーバー以外の各分離サーバー、またはフローサーバー
- (2) メインサーバー
- (3) レポートサーバー
- (4) データベースサーバー

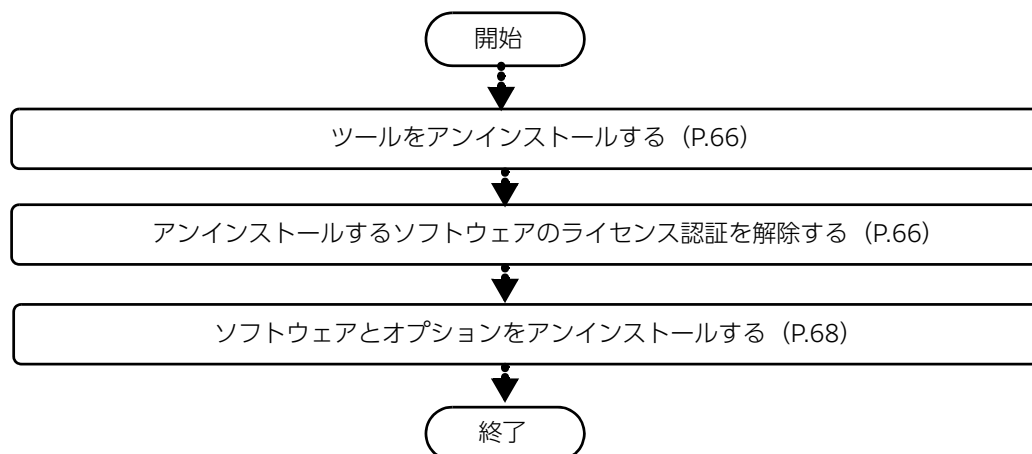


- ・ プリントアプリケーションサーバーの場合
 1. プリントアプリケーションをアンインストールします。
 2. データベースを削除します。
 3. メインサーバーを再起動します。
- ・ プリント入出力サーバーの場合
 1. メインサーバーの管理者画面から、アンインストールするプリント入出力サーバーを削除します。
 2. プリント入出力サーバーをアンインストールします。

アンインストールの流れ



- ・ カスタム認証や富士フイルム BI ダイレクト連携設定などの機能を利用している場合、これらの機能を利用するために必要なプラグインやカスタムサービスが、機器に追加されます。ApeosWare Management Suite をアンインストールする前に、[認証 / 集計モード] が [認証しない] に設定された機器グループに機器を移動し、機器への反映を実行してください。機器への反映が正常に終了すると、機器からプラグインやカスタムサービスが削除されます。
- ・ ApeosWare Management Suite をアンインストールしてから再度インストールする場合は、前回と同じフォルダーにインストールしてください。



ツールをアンインストールする

1. Windows の [プログラムと機能] ウィンドウで、次の操作をします。

(1) アンインストールするツールをクリックします。

ツール名とウィンドウ上の名前の対応は、次の表を参照してください。

ツール名	ウィンドウ上の名前
Job Log Analyzer	FUJIFILM ジョブログ集計ツール {バージョン番号}
Paper Form Editor	FUJIFILM Paper Form Editor {バージョン番号}
Paper Form Management	FUJIFILM Paper Form Management {バージョン番号}
Popup Messenger	FUJIFILM ポップアップ通知受信ツール {バージョン番号}
Update Service	FUJIFILM アップデートサービス {バージョン番号}

(2) [アンインストール] をクリックします。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

アンインストールするソフトウェアのライセンス認証を解除する

インターネット経由でライセンスを解除する

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM] > [ライセンス管理画面] の順に選択します。
ライセンス管理画面が起動します。

2. [高度な機能] をクリックします。

3. [ライセンス認証の削除] を選択し、[次へ] をクリックします。

4. ライセンス認証を解除するソフトウェアを選択します。すべて解除する場合は、[全選択 / 全解除] をクリックします。

5. [次へ] をクリックします。

6. [インターネットを使ってライセンス認証の解除を行う] を選択し、[次へ] をクリックします。

7. 確認画面が表示されたら、確認して [OK] をクリックします。
ライセンス認証が解除されます。

8. [終了] をクリックします。

確認画面が表示されます。

9. [はい] をクリックします。
ライセンス管理画面が終了します。

ファイルを使ってライセンス認証を解除する

ライセンス認証解除ファイルを作成する

1. Windows のプログラムを起動するメニューから [FUJIFILM] > [ライセンス管理画面] の順に選択します。
ライセンス管理画面が起動します。
2. [高度な機能] をクリックします。
機能を選択する画面が表示されます。
3. [ライセンス認証の削除] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. ライセンス認証を解除する製品名 (シリアル番号) にチェックマークが付いていることを確認し、[次へ] をクリックします。
5. 次のように操作します。
 - (1) [ファイルを使ってライセンス認証の解除を行う] を選択します。
 - (2) [参照] をクリックし、ライセンス認証解除ファイルの出力先およびファイル名を指定します。



初期値ではファイル名が「LRT.dat」で、デスクトップに出力されます。

- (3) [次へ] をクリックします。
ライセンス認証解除ファイルが、指定したフォルダーおよびファイル名で出力され、完了画面が表示されます。
6. [完了] をクリックします。
7. [終了] をクリックします。
確認画面が表示されます。
8. [はい] をクリックします。
ライセンス管理画面が終了します。
9. USB メモリなどを利用して、出力したライセンス認証情報ファイルを、インターネットに接続できる PC にコンピューターにコピーします。

ライセンス認証解除ファイルをアップロードする

1. Web ブラウザーを起動します。
2. Web ブラウザーの [アドレス] に、「富士フィルム BI ダイレクト」のファイルアップロードのページの URL を入力します。
https://direct-fb.fujifilm.com/ap1/license/bulk_activation/upload?proc=activation
「富士フィルム BI ダイレクト」のログイン画面が表示されます。
3. [ユーザー ID (メールアドレス)] と [パスワード] を入力し、[ログイン] をクリックします。
ファイルアップロードのページが表示されます。
4. [認証解除] タブを選択し、[参照] をクリックします。
5. 出力したライセンス認証情報ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

ライセンス認証情報ファイルを直接ドラッグ&ドロップすることもできます。

6. ファイル欄に選択したファイルが表示されていることを確認し、[送信] をクリックします。
「ファイルの処理を受け付けました。」というメッセージが表示されます。
7. 「富士フィルム BI ダイレクト」から送信された、ライセンス認証処理の完了を知らせるメールを受信します。
8. メールに記載されている [処理結果一覧] 画面の URL をクリックし、Web ブラウザーで富士フィルム BI ダイレクトの [処理結果一覧] 画面を表示します。
9. メールに記載されている受付番号の [結果] 欄が「OK」であることを確認します。

ソフトウェアとオプションをアンインストールする

1. Windows の [プログラムと機能] ウィンドウで、次の操作をします。
 - (1) Flow Management がインストールされている場合は、[FUJIFILM Flow Management 2.2] をクリックします。
 - (2) [アンインストール] をクリックします。
 - (3) Image Log Management がインストールされている場合は、[FUJIFILM Image Log Management 2.2] をクリックします。
 - (4) [アンインストール] をクリックします。
 - (5) [ApeosWare Management Suite] をクリックします。
 - (6) [アンインストール] をクリックします。以降は、画面の指示に従って操作してください。



- ・ アンインストール時に「データベースが削除できません」というメッセージが表示され、アンインストールに失敗した場合は、[プログラムの追加と削除] から再度アンインストールを実行してください。アンインストール操作を繰り返すことで、正常にアンインストールできます。
- ・ Update Service でアップデートした Flow Management Option をアンインストールするときに、確認メッセージに表示されるバージョンが、現在お使いのバージョンと異なることがあります。
このような場合は、現在お使いのバージョンを「プログラムと機能」のバージョン列で確認し、問題がなければそのままアンインストールしてください。

データベースを手動で削除する

ApeosWare Management Suite が使用するデータベースを、SQL Server が提供するコンポーネントを使って、手動で削除する方法を説明します。

データベースの削除が必要な場合とは

通常のアンインストールでは、この手順は必要ありません。

この手順は、ApeosWare Management Suite のアンインストール時、何らかのトラブルで、データベースが削除できなかったときに実行します。ApeosWare Management Suite を再利用する予定がなく、データベースが不要となった場合に実行してください。なお、一部のデータベースが存在しない場合など、データベースが不完全な状態のときに手動で削除すると、エラーが表示される可能性があります。その場合も、「論理データベースと SQL Server ログインの削除」(P.68)、「物理データベースを削除する」(P.70) の手順を実行してください。



ApeosWare Management Suite の運用中は、データベースを削除しないでください。

論理データベースと SQL Server ログインの削除

あらかじめ、次のことを確認します。

- インストールで指定した、SQL Server のインスタンスが起動している
ApeosWare Management Suite のインストーラーに含まれる SQL Server 2019 を自動でインストールした場合は、インスタンス名が「FXAW」になります。
- ApeosWare Management Suite の各ソフトウェアが動作していない

1. SQL Server をインストールした PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。

2. コマンドプロンプトを開きます。

3. 次のコマンドを入力して、インスタンスにログインします。

```
c:¥>sqlcmd.exe -E -S(local)¥ {インストール時に指定したインスタンス名}
```

正常にインスタンスにログインすると、コマンドプロンプトが次のようになります。

```
1>
```

4. 次のコマンドを実行して、データベースと SQL Server ログインを削除します。

```
1>drop database {データベース名}
2>go
1>sp_droplogin {SQL Server ログイン名}
2>go
1>
```

正常に削除できた場合は、コマンドプロンプトが表示されます。

5. 次のコマンドを実行して、データベースと SQL Server ログインを削除します。

```
1>exit
```

データベース名と SQL Server ログイン名

データベース名と SQL Server ログイン名は、次の表のように、ソフトウェアごとに異なります。

ソフトウェア	データベース名	SQL Server ログイン名
A p e o s W a r e Management Suite	AWMS2	・ login_scn ・ login_pm ・ login_cst ・ login_jtr ・ login_dm ・ login_rms ・ login_fm ・ login_um ・ login_nim ・ login_sdm ・ login_mon ・ login_sf ・ login_rpt ・ login_mob ・ login_awms2 ・ login_ext

ソフトウェア	データベース名	SQL Server ログイン名
Flow Management Option	・ FM_DATA ・ FM_DATA_JP ・ FM_DATA_LOG ・ FM_DSH_RESOURCE*¹ ・ FM_NPP ・ FM_PORTAL_DATA ・ FM_PRINT_DATA ・ FM_PROPERTY_MAPPER_DATA ・ FM_REPOSITORY ・ FM_REPOSITORY_CENTRAL*² ・ FM_USERINTERACTION_DATA ・ FM_WEBUI_DATA	・ AWFMDDataDBUser ・ AWFMDDataJpDBUser ・ AWFMDDataLogDBUser ・ AWFMDShDBUser*¹ ・ AWFMNPPDBUser ・ AWFMPortalDataDBUser ・ AWFMPrintDBUser ・ AWFMPROPERTYMAPPERDBUser ・ AWFMRRepositoryCentralDBUser*² ・ AWFMRRepositoryDBUser ・ AWFMRUserInteractionDBUser

*1 Paper Form Management をインストールした場合のみ

*2 Enterprise Edition のみ

データベース名と SQL Server ログイン名の数だけ、コマンドを繰り返し実行します。

たとえば、ApeosWare Management Suite のデータベースを削除する場合は、次のようにコマンドを実行します。

```

1>drop database AWMS2
2>go
1>sp_droplogin login_scn
2>go
1>sp_droplogin login_pm
2>go
(中略)
1>sp_droplogin login_rpt
2>go
1>sp_droplogin login_mob
2>go
1>

```

また、データベースが複数ある場合、すべてのデータベースを削除してから、SQL Server ログインを削除します。

物理データベースを削除する

エクスプローラーで、ApeosWare Management Suite 関連のデータベースの物理ファイルを削除します。物理ファイルがすでに削除されている場合は、この手順は不要です。オールインワン構成の場合と、分散構成の場合で、物理ファイルの場所は異なります。エクスプローラーでファイルが削除できない場合は、正しく論理データベースを削除できていない可能性があります。

また、ApeosWare Management Suite をアンインストールする前に SQL Server のインスタンスを削除した場合には、物理ファイルだけが残ります。この場合、データベースが不要なときは、ApeosWare Management Suite を再インストールする前に、物理データベースを削除してください。

オールインワン構成の場合

1. エクスプローラーで、次のフォルダー内にある、ApeosWare Management Suite 関連のデータベースの物理ファイルを削除します。

ソフトウェア	フォルダー	削除するファイル
ApeosWare Management Suite	{ApeosWare Management Suite のデータ格納先フォルダー} ¥db	・ AWMS2.mdf ・ AWMS2.ldf

ソフトウェア	フォルダー	削除するファイル
Flow Management Option	{Flow Management Option のインストールフォルダー *1} ¥Flow Management¥db	・ FM_DATA.ldf ・ FM_DATA.mdf ・ FM_DATA_JP.ldf ・ FM_DATA_JP.mdf ・ FM_DATA_LOG.ldf ・ FM_DATA_LOG.mdf ・ FM_NPP.ldf ・ FM_NPP.mdf ・ FM_PORTAL_DATA.ldf ・ FM_PORTAL_DATA.mdf ・ FM_PRINT_DATA.ldf ・ FM_PRINT_DATA.mdf ・ FM_PROPERTY_MAPPER_DATA.ldf*2 ・ FM_PROPERTY_MAPPER_DATA.mdf*2 ・ FM_REPOSITORY.ldf ・ FM_REPOSITORY.mdf ・ FM_REPOSITORY_CENTRAL.ldf*2 ・ FM_REPOSITORY_CENTRAL.mdf*2 ・ FM_USERINTERACTION_DATA.ldf ・ FM_USERINTERACTION_DATA.mdf ・ FM_WEBUI_DATA.ldf ・ FM_WEBUI_DATA.mdf
Paper Form Management		・ FM_DSH_RESOURCE.ldf ・ FM_DSH_RESOURCE.mdf

*1 初期値は「C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ApeosWare MS」です。

*2 Enterprise Edition のみ。

分散構成の場合

1. レジストリエディターを起動して、次のレジストリキーから SQL Server のデータ格納フォルダーを確認します。
HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Microsoft SQL Server¥MSSQL {SQL Server バージョン}
. {インスタンス名} ¥Setup¥SQLDataRoot
例：
ApeosWare Management Suite のインストーラーに含まれる SQL Server 2019 を自動でインストールした場合は、次になります。
HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Microsoft SQL
Server¥MSSQL15.FXAW¥Setup¥SQLDataRoot
2. エクスプローラーで、手順 1 で確認したフォルダー内にある、「オールインワン構成の場合」(P.70) の手順 1 に示すファイルを削除します。

メモリー使用量の割り当て

概要

次の場合に ApeosWare Management Suite が使用するメモリーの量を設定できます。

- ApeosWare Management Suite のソフトウェアに割り当てるメモリーの量を変更したい場合
- ApeosWare Management Suite のソフトウェアを追加または削除した場合
- ApeosWare Management Suite をインストールした PC のメモリーの量を変更した場合

コマンドを実行する PC にインストールされた、次の機能が対象です。

- User Management
- Device Management
- Scan & Connector
- Cost Management
- Print Management
- Flow Management
- Image Log Management
- SQL Server

それぞれの機能には、自動的にメモリー量が割り当てられます。



リモートでは設定できません。

オプション

コマンド「AWMEMCONF.exe」のオプションを説明します。

オプション	説明
-N {ApeosWare Management Suite に割り当てるメモリー量}	ApeosWare Management Suite に、{ApeosWare Management Suite に割り当てるメモリー量} で入力したメモリーが割り当てられます。メモリー量は、MB 単位で入力します。推奨値は、2048、4096、および 8192 です。 PC に搭載されたメモリー量と同じ値は指定できません。 PC に搭載されたすべてのメモリーを割り当てたい場合は、「-N」のあとに何も入力しないで実行してください。 また、PC にインストールされている ApeosWare Management Suite のソフトウェアが必要なメモリー量を満たさないメモリー量は指定できません。 実行後に、PC の再起動が必要です。
-S	ApeosWare Management Suite をインストールしたときのメモリーの使用量に戻ります。実行後に、PC の再起動が必要です。
-C	ApeosWare Management Suite に割り当てられているメモリーの量が表示されます。
-D	-F 以外のオプションと併せて使用すると、デバッグログが出力されます。デバッグログは、弊社のカスタマーエンジニアまたはサービスエンジニアが使用します。
-H またはなし	ヘルプが表示されます。
-F	確認メッセージを表示しないでコマンドを実行する場合に、-D 以外のオプションと併せて使用します。
-V	「AWMEMCONF.exe」のバージョンが表示されます。

メモリーの使用量を割り当てる

メモリーの使用量を割り当てるコマンドの実行手順を説明します。

1. メモリーの使用量を変更する PC に、Administrator 権限でログオンします。
2. コマンドプロンプトを開きます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd {MST フォルダへのパス}
```


{MST フォルダーへのパス} は、初期値を変更していない場合は次になります。

- ApeosWare Management Suite

[C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ApeosWare MS¥Utils¥MST]

- Flow Management

[C:¥Program Files (x86)¥FUJIFILM¥ApeosWare MS¥FM¥tools¥MST]

- Image Log Management

[C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ApeosWare MS¥Image Log Management¥Utils¥MST]

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
AWMEMCONF.exe -N {ApeosWare Management Suite に割り当てるメモリー量 (MB)}
```

メモリー量の推奨値は、2048、4096、および 8192 (MB) です。

```
AWMEMCONF.exe -N
```



ApeosWare Management Suite、Flow Management または Image Log Management をインストール中に次のメッセージが表示された場合は、「PC に搭載されたすべてのメモリーを割り当てる場合」を選んでください。
「メモリーの割り当て量を最適化できませんでした。このままでもシステムを利用することはできますが、正常に動作しない可能性があります。インストールの完了後に、Memory Configuration でメモリーの割り当て量を最適化してください。(Memory Configuration の使い方については、マニュアルを参照してください)」

5. 次のメッセージが表示されるので、問題がなければ <y> を押します。

現在、ApeosWare Management Suite には、このコンピューターの全物理メモリー量 {PC の全物理メモリー量} MB のうち {現在割り当てられている物理メモリー量} MB が割り当てられています。
メモリー割り当て量の設定を開始してもよろしいですか？ (y/n)

手順 4 で入力したコマンドに従ったメモリー量が ApeosWare Management Suite に割り当てられます。

6. 正常に終了すると次のメッセージが表示されるので、PC を再起動します。

メモリー割り当て量の設定を正常に完了しました。
設定を反映させるにはコンピューターを再起動してください。

メモリーの使用量を初期状態に戻す

ApeosWare Management Suite をインストールしたときのメモリーの使用量に戻します。

1. メモリーの使用量を変更する PC に、Administrator 権限でログオンします。

2. コマンドプロンプトを開きます。

3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd {MST フォルダーへのパス}
```

{MST フォルダーへのパス} は、初期値を変更していない場合は次になります。

- ApeosWare Management Suite

[C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ApeosWare MS¥Utils¥MST]

- Flow Management

[C:¥Program Files (x86)¥FUJIFILM¥ApeosWare MS¥FM¥tools¥MST]

- Image Log Management

[C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ApeosWare MS¥Image Log Management¥Utils¥MST]

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

AWMEMCONF.exe -S

5. 次のメッセージが表示されるので、問題がなければ <y> を押します。

現在、ApeosWare Management Suite には、このコンピューターの全物理メモリ量 {PC の全物理メモリー量} MB のうち {現在割り当てられている物理メモリー量} MB が割り当てられています。
メモリ割り当て量の設定を開始してもよろしいですか？ (y/n)

インストールしたときのメモリーの使用量に戻ります。

6. 正常に終了すると次のメッセージが表示されるので、PC を再起動します。

メモリ割り当て量の設定を正常に完了しました。
設定を反映させるにはコンピューターを再起動してください。

動作ログ

「AWMEMCONF.exe」の実行内容が 1 日につき 1 回、動作ログとして出力されます。動作ログの内容を説明します。

出力先とファイル名

- 動作ログが出力されるフォルダー

{ユーザーデータ保存先} ¥Data¥Common Utility¥Memory Configuration¥logs

{ユーザーデータ保存先} の初期状態は「{インストール先ドライブ} ¥FUJIFILM¥ApeosWare MS」です。

- ファイル名

AWMCT-mct-system- {出力した年} - {出力した月} - {出力した日} .log



「AWMEMCONF.exe」の動作ログは、Diagnostics Utility で収集されません。

出力内容

動作ログには、次の「項目」に示す内容がカンマで区切られて出力されます。

項目	説明
日時	発生した時間（西暦年、月日時分、秒、ミリ秒、タイムゾーン）です。
重要度	次のどれかです。 ・ INFO ・ WARN ・ ERROR ・ FATAL
空白	-
ホスト名	実行したホストの名前です。
コンポーネント ID	処理したコンポーネントを識別する文字列です。
空白	-

項目	説明
空白	-
操作対象	処理や操作の分類を識別する文字列です。
コンポーネントのメッセージ	ログコード、原因を示す情報、および事象の対処に必要な情報です。
空白	-
スタックトレース	エラーが発生したときのスタックトレースです。